

2 中札内村の景観特性の調査・分析(基礎調査)

2.1 既往文献や関連する計画の収集・整理

「中札内村まちづくり計画」等の上位計画や、これまで策定された「農村景観ガイドライン」「景観形成指針」「景観づくり・なかさつないルール」を踏まえ、中札内村の景観形成の考え方や、村の概況などを把握し、景観特性を検討するうえで必要な基礎データを整理します。

2.1.1 景観計画の位置付け

(1) 景観計画策定の背景と策定目的

平成 15 年 7 月、国土交通省は観光立国を実現する戦略の一つとして「美しい国づくり政策大綱」を公表し、これまでの政策方針の転換となる「美しい国づくりに向けて大きく舵を切る」ことを宣言しています。その翌年の平成 16 年には、景観に関する総合的な法律として「景観法」を制定しています。

中札内村では、昭和 52 年以来、北海道生活環境整備モデル事業としての環境整備活動をきっかけに景観づくりに関する取組みが始まっており、景観形成の指針を初めて示した「農村景観ガイドプラン」、村独自の景観に関する条例「豊かな自然をみらいにつなぐふるさと景観条例」等が定められるなど、村民の景観形成に対する意識づくりが図られています。

本計画は、さらなる中札内村らしい風景の保全・継承・創出を目指し、景観まちづくりを進める基本的な計画として、景観形成の方針、行為の制限に関する事項などを定めるものです。

なお、景観法に基づいて良好な景観形成のための具体的な施策を実施していく景観行政団体への移行は、令和 7 年度以降を予定しており、令和 5 年度から令和 6 年度の 2 か年において、計画策定を目指すものです。

(2) 景観計画の位置付け

本計画は、主に中札内村の上位計画である「第7期中札内まちづくり計画」に基づくものであり、中札内村が策定する「豊かな自然を未来につなぐふるさと景観条例」や北海道が策定する「北海道景観計画等」などの既往関連計画との整合を図るものです。

また、本計画は、景観法第8条の施行に基づく景観計画として策定するものです。

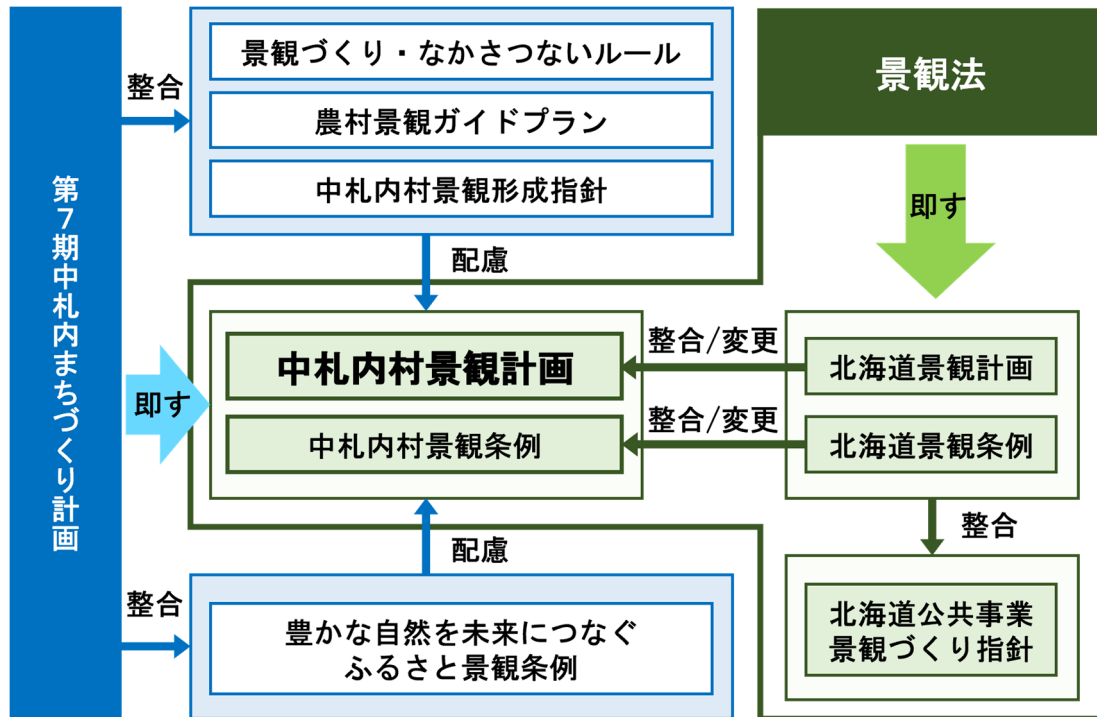


図 2-1 中札内村景観計画と上位関連計画の関係性

(3) 計画期間

本計画は、景観づくりに関する長期的な展望を持った計画であるため、計画期間は設定しませんが、社会動向の変化等により目指すべき目標に変更が生じた場合は必要に応じて見直しを行うものとします。

2.1.2 上位関連計画等の整理

景観計画策定に係る上位関連計画をリストアップし、中札内村の景観形成に関連する事項について整理を行いました。

なお、整合を図るべき主たる計画については、次頁以降にその抜粋を掲載します。

また、景観形成やその計画に影響を与えたと想定される関連資料や活動についても整理します。

表 2-1 上位関連計画等による中札内村の景観形成に関する事項

計画名	中札内村に関連する事項
北海道景観計画 (平成 20 年 6 月) 【次頁以降掲載】	■一体性と連続性のある広域景観づくり ・全道各地における自然景観、田園景観、沿道・沿線景観及び市街地景観の特色に配慮しながら、景観計画区域におけるこれらの景観が、広域的なまとまりのなかで、連続性を保ちながら一体となって、本道の雄大な大地と澄んだ青空にふさわしい美しい景観を形成することができるような景観づくりをすすめる。
北海道景観条例 (平成 19 年 1 月)	・良好な景観の形成に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって豊かさと潤いのある暮らし及び魅力ある地域社会の実現に寄与することを目的とする。
北海道公共事業景観づくり指針 (平成 15 年 6 月) 【次頁以降掲載】	■公共事業の景観づくりにおける基本的な視点 ・北海道の景観特性に配慮する。 ・時の経過を考慮する。 ・先導的役割を果たす。 ■道路 ・歩行時や走行時の景観の連続性や変化に配慮するとともに、地域の景観資源との調和に努める。 ■海岸 ・周辺の自然景観との調和に努める。 ■森林 ・針広混交林の造成など多様な森林整備に努める。 ■公園・緑地 ・親しみのもてる空間づくりに努める。 ■農地 ・環境と調和した美しい農村づくりの推進に努める。
第 7 期中札内村まちづくり計画 (令和 4 年-令和 11 年) 【次頁以降掲載】	・まちづくり基本条例の実践に向けた計画で、村民との共同によるまちづくりのための行動計画となるもの。 ・基本構想 8 年分、基本計画と実施計画は 4 年分策定。 ・潤いと安らぎのまちづくりを目指し、自然環境の保全と景観の形成を目標に掲げている。
農村景観ガイドプラン (平成 5 年) 【次頁以降掲載】	・村の景観をどのように整えていくかを図、写真で説明→村民用資料。 ・（見苦しいものをなくす、色彩計画、道の現状写真&理想図）
豊かな自然をみらいにつなぐふるさと景観条例 (平成 14 年)	・目的 村の景観形成に関し、住民、企業などの果たすべき役割を明らかにし、美しい景観の形成を目指す。 ・内容例 ○○(ex. 村民)は△△するように努めるものとする。
中札内村景観形成指針 (平成 15 年) 【次頁以降掲載】	・美しい景観づくりの基本方針…市街地域、農村地域別。 ・全村的な景観形成の取り組み…村、住民、企業それぞれの役割。 ・分野別の景観形成方針…商店街、市街地、農村地区、企業等、農業経営等、公共施設・公共事業等、自然景観、生活ごと。
景観づくり・なかさつないルール 【次頁以降掲載】	・景観が村民の意識から遠くなっていることを受けて、景観を守るための取り組みの効果をあげるために、「景観づくり・なかさつないルール」を村民でつくることを提案。 ・村民向けの資料で「どういう景観にするか」「そのために誰が何をするか」「ルールによって生まれる効果」が掲載。

表 2-2 その他関連資料や活動等

資料・活動名等	中札内村に関連する事項
中札内スタイル住宅建築基準	・ 定住促進にむけた支援の基準 ・ 村で定める基準に適合する住宅を新築又は購入した方に対する助成のための基準「中札内スタイル住宅建築基準要項」
景観まちづくり委員会	・ NPO 法人「日本で最も美しい村」連合に加盟する自治体の中札内村にて総会を開催する際、村の景観形成の取組みや、「美しい村」への思いを発表 ・ 「ずっと残したい“なかさつない”の風景」事業 ・ 景観学習 ・ 観察懇談会 ・ 景観ツアー ・ 景観ルートマップの作製 ・ 「日本で最も美しい村」連合 PR 活動など ・ 「景観づくり・なかさつないルール」の浸透に向けて ・ 村政への提言
なかさつない景観ツアー	・ 村の中にある景観ポイントをバスで巡り、うつくしい風景や、暮らしと密接に繋がる景観を発見するツアー
中札内グリーンウォークマップ	・ むらの自然に親しみながら歩くことのできるウォーキングコース紹介
「日本で最も美しい村」連合加盟	・ 十勝管内で初めて景観条例を策定。また、全国絵画公募展「北の大地ビエンナーレ」や「花いっぱい運動」での住民参加の取組が評価され認定加盟

(1) 北海道景観計画

2 景観計画区域

この計画の区域（以下「景観計画区域」という。）は、景観行政団体である市町村の区域を除く北海道の区域（別図のとおり）とする。

3 良好な景観の形成に関する方針

法第8条第3項に規定する景観計画区域における良好な景観の形成に関する方針は、次のとおりとする。

(1) 一体性と連続性のある広域景観づくり

全道各地における自然景観、田園景観、沿道・沿線景観及び市街地景観の特色に配慮しながら、景観計画区域におけるこれらの景観が、広域的なまとまりのなかで、連続性を保ちながら一体となって、本道の雄大な大地と澄んだ青空にふさわしい美しい景観を形成することができるよう景観づくりをすすめる。

(2) 戦略的な活用を図るための景観資源の整備

北の大地の豊かな自然や、北国における人々の日々の暮らしと地域の資源を活かした農業などの産業の反映である本道の美しい景観は、まちづくりや観光などの地域の産業にとって重要な資源である。景観計画区域における景観資源が、持続可能な地域づくりに資することを目的として、その価値を高め、まちづくりや産業の振興に有効に活用されるよう、必要な整備が図られるように努める。

(3) 協働による多様な景観づくり

広域性と並ぶ本道の景観特性である多様性を活かし、景観づくりに主体的に取り組む道民や市町村、事業者などと協働しながら、風土や歴史、文化を大切にしながら多様な景観づくりをすすめる。

(4) 景観の総合的な質を高めるための景観づくり

景観づくりは、持続的かつ総合的に取り組むことが必要であることから、景観を阻害する建築物や工作物等について必要な規制をすることなどにより、景観計画区域における良好な景観を保全し、景観の総合的な質の向上を図る。

(2) 北海道公共事業景観づくり指針

3 公共事業の景観づくりにおける基本的視点**(1) 北海道の景観特性に配慮する**

北海道の景観は、地理的条件や気候等の場所的要因、土地利用などの空間構成的要因をはじめ、地域の成り立ちなどの歴史的要因、生活や産業などの人文的・社会的要因が複合的に関わりあって生み出されており、市町村の枠を越えた広域性と多様性が特徴となっている。

このため、公共事業の実施にあたっては、その地域特有の景観が生み出される要因を把握し、地域の景観特性を生かした景観づくりに努める。

(2) 時の経過を考慮する

景観づくりは、時間をかけてたゆみなく育む視点が重要であり、特に公共施設は長期間にわたって利用していくことが求められるものであることから、時の経過とともに歴史を刻む素材の選定や意匠の工夫に努める。また、施設完成後は適切な維持管理を行い、良好な景観を守るよう努める。

(3) 先導的役割を果たす

公共事業によって整備される施設の種類の多様であり、また、大規模なものが多く、地域の景観づくりに及ぼす影響が極めて大きいため、景観づくりの拠点や基軸として周辺景観の質の向上に先導的な役割を果たすことにより、地域や民間の景観づくりの誘導を図るよう努める。

(3) 第7期中札内村まちづくり計画



基本目標 5

潤いと安らぎのまちづくり

本村の豊かな自然と生活基盤が調和した快適に暮らせる環境を守り、住み続けたい思いを叶えられるよう、生活環境・基盤の整備に取り組みます。

◇環境に優しいまち

1 総合的な土地利用の推進

- 総合的、計画的な土地利用の推進

2 自然環境の保全と景観形成

- 自然環境の保護・保全と景観づくりの推進
- 地球温暖化防止に向けた取組

3 環境衛生・美化対策の充実

- 適正なごみ処理・廃棄物処理対策の実践
- 悪臭防止対策
- 環境美化の推進
- 火葬場・墓地の適正管理

基本計画 ー基本目標5 潤いと安らぎのまちづくりー

1 環境に優しいまち

5-1-1 総合的な土地利用の推進

施策の背景

村民の生活環境の向上と村の発展のため、自然環境や景観との調和を保ちながら総合的かつ計画的に将来を見据えた土地利用を図る必要があります。

めざすべき姿

市街地の空洞化対策や未利用地の有効活用を図り、自然環境や美しい景観に配慮した土地利用を推進します。

民有地の空き地・空き家は、情報収集に努め、迅速な情報発信と利活用を促します。

(4) 農村景観ガイドプラン

2. 景観形成を進めるための、2つの目標

この目標に向かって、景観形成を進めていきたいと思います。

- 「ゆうきトピアなかさつない」を合言葉に……

日本一美しい村をつくる

日本一の農業の村をつくる



豊かな自然



美しい景観



おいしい農畜産物



豊富な特産品



心がきれいな人



ふれあいの場



農村文化



都会の人を受け入れる場

- 2 -

3. 景観を形づくるための、姿勢と目標

- 中札内の景観は、大きく分けると3つに区分されます。



自然景観ゾーン
(札内川上流一帯)



田園景観ゾーン
(農地、防風林など)



市街地景観ゾーン
(商店街、住宅街など)

- 中札内らしい景観をつくるには、4つの姿勢が必要です。

- ①景観を守る(保全)
- ②景観を見つける(発見)
- ③景観を育てる(育成)
- ④景観を創る(創造)

- 景観を形づくるために、3つの目標を設定しました。



自然景観ゾーン
〔自然環境を守る〕
〔景観を見つける〕



田園景観ゾーン
〔景観を育てる〕



市街地景観ゾーン
〔景観を創る〕

- 3 -

(5) 景観形成指針(中札内村)

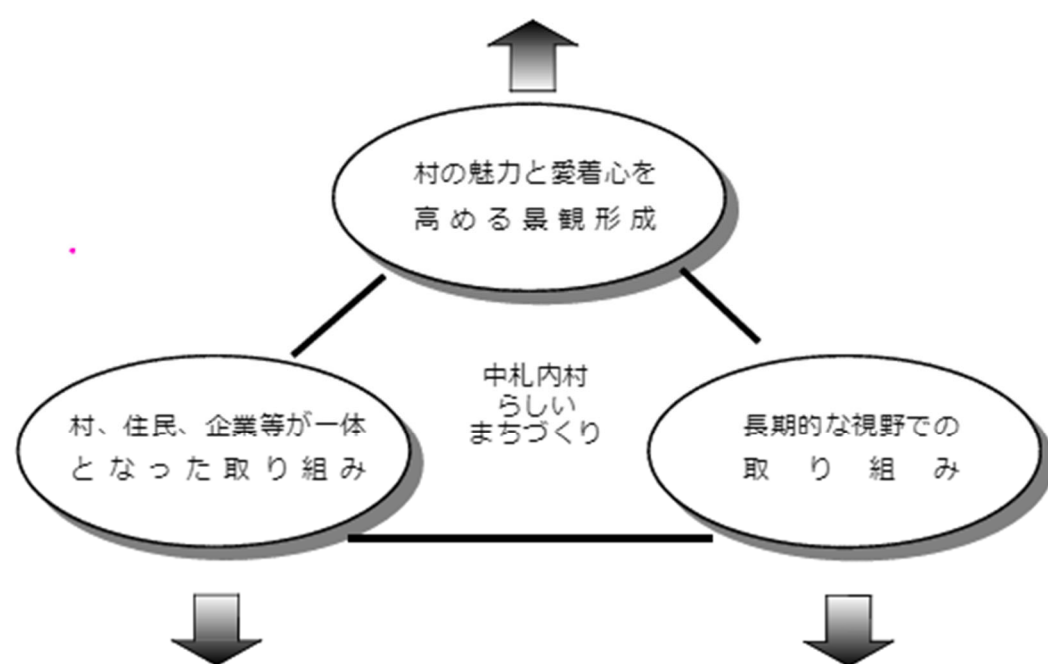
1 景観形成の基本的な考え方

中札内村において、景観形成を推進するにあたっての基本となる考え方です。

4つのポイント

・保全 守る) ・発見 見つける) ・育成 育てる) ・形成 いくる)

美しい景観をつくることは、中札内村に住む私たちが村への誇りを持ち、郷土への愛着心を深めるとともに、訪れる人にとっても魅力ある村と感じてもらふことになります。



景観は様々な要素で構成されていることから、村・住民・企業等が共通の認識にたって進めていくことが大切です。

また、村も公共事業の実施において、景観形成の先導的な役割を果たすとともに、住民、企業等に対する理解活動を積極的に展開していく必要があります。

景観形成への取り組みは、短い期間で結果が表れるものではなく、長い年月をかけてゆっくりに行っていくものです。

ですから、今後の社会の変化などに合わせた計画や施策を実施できるような体制づくりが必要と言えます。

2 美しい景観づくりの基本方針

中札内村を市街地域と農村地域に分けて、それぞれの基本方針を示しています。

市街地域

- ・ まちの緑 まちの中に緑を増やし、心やすらぐ空間をつくりましょう。
- ・ まちの眺望 まとまり感のある市街地を形成するため、花を活用した環境美化や緑化の推進に努めましょう。
- ・ まちの川 まちの中を流れる小河川などは、親水性の高い空間として保持しましょう。
- ・ まちの顔 公共施設周辺には、周囲と調和した樹木や花などの植栽による景観形成を行いましょ
- ・ 商店街と住宅地 メーンストリートは賑わい感をつくり出し、住宅地は落ち着きのある環境づくりに努め

農村地域

- ・ 林や森との一体感 住宅や格納庫などを周囲の林や森に調和させましょう。
- ・ 歴史を大切に 先人が植えた樹木を守り、使っていない家屋などは、農村景観に調和するような利活用を行いましょ。
- ・ 森の中の河川 農村地区を流れる河川は、できるだけ手つかずの自然として守りましょ。
- ・ 緑豊かな田園空間 樹木などは、できるだけ伐採しないように努めるとともに、更に緑を増やす工夫をしましょ。

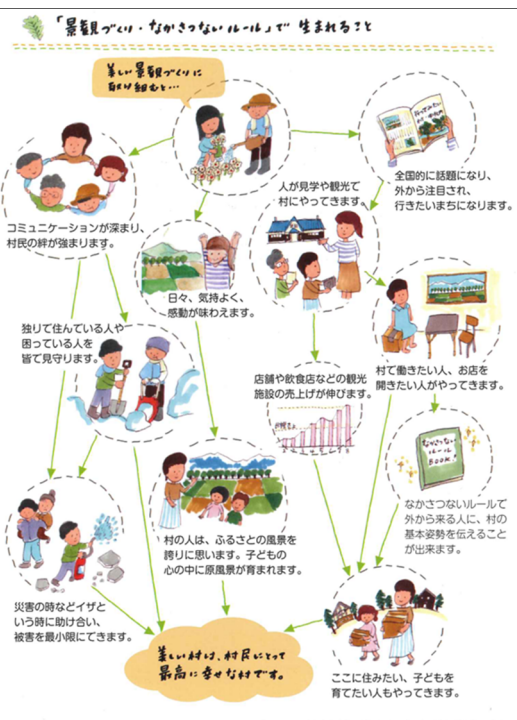
(6) 景観づくり・なかさつないルール



「景観づくり・なかさつないルール」
をつくりませんか？
日本一美しい村を目指して



「景観づくり・なかさつないルール」で生まれること



美しい景観づくりは、自然の恵みと...

人が見学や観光で村にやってくる。全国的に話題になり、外から注目され、行きたいまちになります。

コミュニケーションが深まり、村民の絆が強まります。

日々、気持ちよく、感動が味わえます。

店舗や飲食店などの観光施設の売上げが伸びます。

村で働きたい人、お店を開きたい人がやってきます。

なかさつないルールで外から来る人に、村の基本姿勢を伝えることが出来ます。

ここに住みたい、子どもを育てたい人もやってきます。

美しい村は、村民にとって最高の宝です。

災害の時などイザという時に助け合い、被害を最小限にできます。

村の人は、ふるさとの風景を誇りに思います。子どもの心の中に原風景が育れます。

01 「景観づくり・なかさつないルール」の考え方

- 中札内村は、清らかな札内川、雄大な日高山脈、うるおいのある森や林、広く整然とした農地など、もともとが美しい景観に恵まれています。
- 美しい景観は、人を引きつける大きな力を持ちます。人が来る場所に交流や経済が生まれ、住み続けたい気持ちが強くなるなど、村に利益をもたらします。
- 景観は、村民のかけがえのない共有財産であると、皆が考えることがまず大切です。より良い状態で次の世代に引き継ぐために、皆がそれぞれの立場で、景観づくりをしていきましょう。
- 景観づくりにはたゆみない歩みが必要ですが、私たちが今、やるべきことは、美しい景観を損ねている可能性があるものを改善することです。
- 皆で話し合っ、皆で進めていく「なかさつない方式」によって、よりいっそう美しい村をつくりましょう。



2.1.3 中札内村の景観形成の考え方

上位関連計画等の整理より、中札内村の景観形成に対する考え方は下記の通りです。

【景観形成の考え方まとめ】

1) 目標

主に下記 2 つの目標を通じて、景観を形成していくことが示されている。

日本一美しい村をつくる

日本一の農業の村をつくる

※「なかさつないルール」では、これらをまとめて「日本一美しい農村をつくる」と表現されている。

2) 景観に対する 4 つの姿勢

景観を形成していく上で、求められている姿勢は下記の 4 つです。

保全（守る）

発見（見つける）

育成（育てる）

形成（創る）

3) ゾーニング

村内を大きく 3 つのゾーンもしくはエリアに区分けし、住民、行政、事業者等がそれぞれ役割を持って景観形成に取り組むことが示されています。

自然景観 … 日高山脈、札内川、丘陵地等の景観

農村・田園景観 … 農地、防風林、農家等の景観

市街地景観 … 住宅地、商店街、役場庁舎、国道、公園等の景観

2.1.4 景観への取り組み状況

中札内村における景観に関する取り組みは、下記の通りです。

表 2-3 中札内村における景観に関する取組一覧表

年	取組内容
昭和 52 年	北海道生活環境整備モデル事業による環境整備活動
昭和 56 年	住民による花づくり運動始まる。花づくりサークル「すみれ会」発足。
昭和 60 年	全国花いっぱいコンクール 内閣総理大臣賞受賞
昭和 62 年	有機農業の村 宣言 循環農業へ
平成 4 年	イメージアップ推進委員会発足。景観の価値が定義付けられる。 その他アグリパーク開業（現道の駅）、坂本直行記念館開館、中札内農村休暇村分譲開始、花畑牧場開業など、景観の創出と活用が始まる。
平成 5 年	農村景観ガイドプラン策定 景観形成に向けた取組開始
平成 8 年	北の大地ビエンナーレ初開催
平成 13 年	「豊かな自然を未来につなぐふさと景観条例」制定
平成 15 年	「景観形成指針」策定
平成 19 年	「まちづくり基本条例」制定
平成 19 年	「中札内スタイル住宅建設奨励金」開始
平成 19 年	六花の森 開園
平成 20 年	ヴィレッジときわの分譲開始
平成 20 年	村設置の看板を撤去
平成 21 年	個別看板撤去→集合看板設置
平成 25 年	景観まちづくり委員会 発足
平成 28 年	「日本で最も美しい村」連合加盟
令和 5 年	景観計画策定に向け、景観調査実施を開始、景観行政団体へ移行を目指す



出典：中札内村 HP

図 2-2 「日本で最も美しい村」連合加盟 加盟地域集合写真

2.2 現況調査

2.2.1 中札内村の概況

(1) 位置・面積

中札内村は十勝平野の南西部に位置します。

面積は、292.58 km²、東西 28km、南北 12km のほぼ楕円形状の村です。

十勝の中心都市帯広からおよそ 28 km（車で約 30 分）の地点にあり、帯広空港にも近く中札内村から車で約 11 km（車で約 12 分）、港湾は、中札内村から 60 km（車で約 65 分）の距離にある広尾町に十勝港があります。



図 2-3 位置図

出典：北海道中札内村基本計画

(2) 人口

中札内村の人口は、2010 年以降減少傾向にあり、将来予測においても、減少が続く予測となっています。

年齢階層としても、65 歳以上となる高齢者人口が増加傾向、0～14 歳、15～64 歳の生産人口は減少傾向となっており、少子高齢化が進行しています。

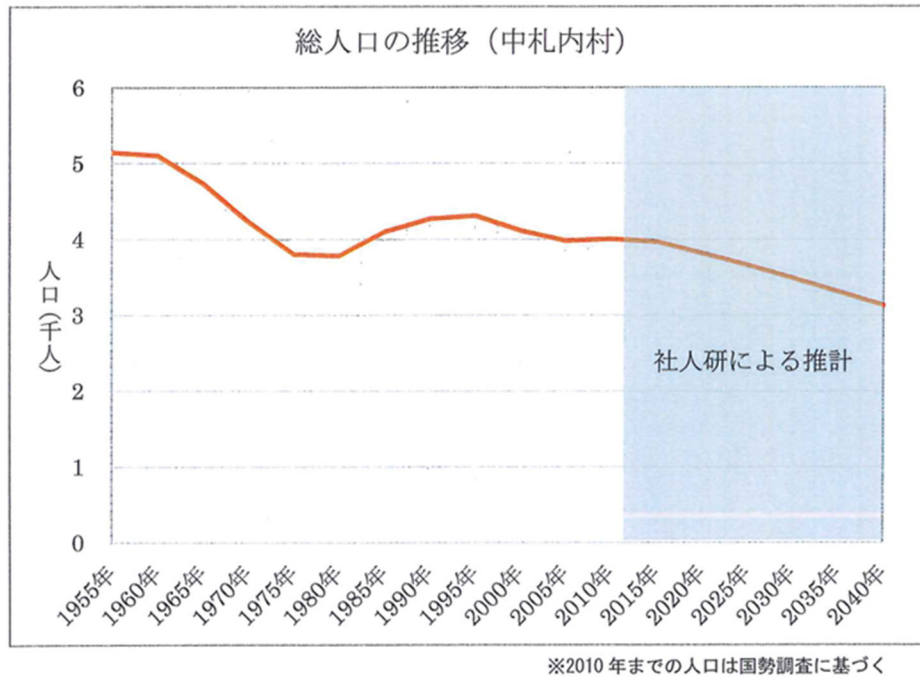


図 2-4 人口変遷

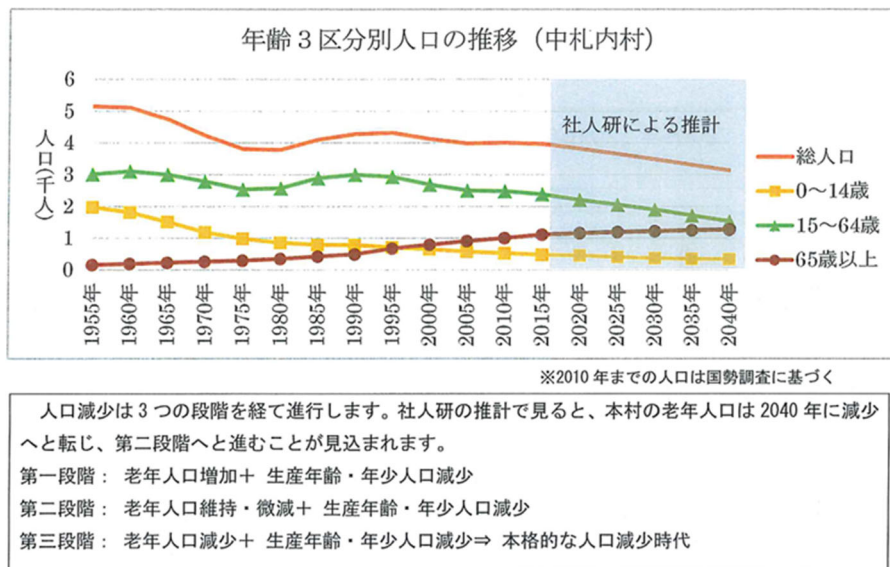


図 2-5 年齢別人口

出典：中札内村人口ビジョン(平成 28 年 2 月)

(3) 歴史・文化

中札内村としての歴史は 1947 年から始まり、所謂 1999 年から政府主導で行われた市町村合併がないまま、今日に至ります。

2016 年には「日本で最も美しい」村連合へ加盟します。

1905 年(明治 38 年)	: 中札内の開拓始まる。
1912 年(大正元年)	: 帯広ー上札内間道路開通。
1916 年(大正 5 年)	: 上札内ー大樹間道路開通。
1929 年(昭和 4 年)	: 日本国有鉄道(国鉄)広尾線帯広ー中札内間開通(中札内駅開業)。
1930 年(昭和 5 年)	: 中札内橋完成。
1946 年(昭和 21 年)	: 北海道農業会厚生診療所(現在の村立診療所)開所。
1947 年(昭和 22 年)	: 大正村(現在の帯広市)から幸震村、売買村、幕別村(現在の幕別町)の一部が分村し、中札内村誕生。
1948 年(昭和 23 年)	: 中札内村役場庁舎新設。
1955 年(昭和 30 年)	: 中札内村立高等学校(後の北海道中札内高等学校)開校(開校当初は定時制。1975 年に全日制となり 1979 年に道立へ移管)。
1959 年(昭和 34 年)	: 村章制定。
1960 年(昭和 35 年)	: 大字を行政字に再編(幸震村→札内、上札内、売買、上売買、ピョウタン、ヌブカクシユナイ、サラベツ、ヌーナイ。売買村→売買。幕別村→サラベツ)。
1964 年(昭和 39 年)	: 国道 236 号帯広ー中札内間道路舗装完成。
1968 年(昭和 43 年)	: 中札内村役場庁舎移転新築。村民憲章、村歌、音頭制定。
1971 年(昭和 46 年)	: 広域消防南十勝消防事務組合設立。
1972 年(昭和 47 年)	: 『やまべ放流祭』初開催。
1977 年(昭和 52 年)	: 開村記念日(9 月 1 日)制定。村花(スズラン)、村木(カシワ)、村鳥(ヒバリ)制定。
1981 年(昭和 56 年)	: 日高山脈襟裳国定公園指定。
1983 年(昭和 58 年)	: 北海道中札内高等養護学校開校。
1985 年(昭和 60 年)	: 「有機農業の村」宣言。
1986 年(昭和 61 年)	: 村内の字再編
1987 年(昭和 62 年)	: 国鉄広尾線廃止。
1989 年(平成元年)	: 旧駅前通り整備(鉄道記念公園)。
1992 年(平成 4 年)	: 開拓記念館オープン。坂本直行記念館オープン。
1993 年(平成 5 年)	: 富山県東礪波郡福野町と姉妹都市提携。
1996 年(平成 8 年)	: アグリパークが「道の駅」指定。『北の大地ビエンナーレ』初開催。
1997 年(平成 9 年)	: 開村 50 周年式典挙行。中札内文化創造センター完成。
1998 年(平成 10 年)	: 札内川ダム完成。
1999 年(平成 11 年)	: 『ガーデニングコンテスト』(現在の中札内花フェスタ)初開催[10]。
2000 年(平成 12 年)	: 家庭ごみ処理有料化。
2002 年(平成 14 年)	: 埼玉県川越市と友好都市提携。
2005 年(平成 17 年)	: 道の駅なかさつないリニューアル。豆の資料館オープン。
2008 年(平成 20 年)	: 北海道中札内高等学校閉校。帯広広尾自動車道中札内 IC 供用開始。
2009 年(平成 21 年)	: 中札内交流の杜オープン。
2010 年(平成 22 年)	: 『むらの風景フォトコンテスト』初開催。
2011 年(平成 23 年)	: 「六花の森プロジェクト」(六花亭、中札内村、大林組)が『日本建築学会賞』学会賞(業績部門)受賞[
2013 年(平成 25 年)	: 十勝管内 19 市町村が「バイオマス産業都市」全国第 1 号選定
2016 年(平成 28 年)	: 十勝圏域 6 消防本部統合し、とかち広域消防事務組合業務開始 「日本で最も美しい村連合」加盟

出典：中札内村要覧

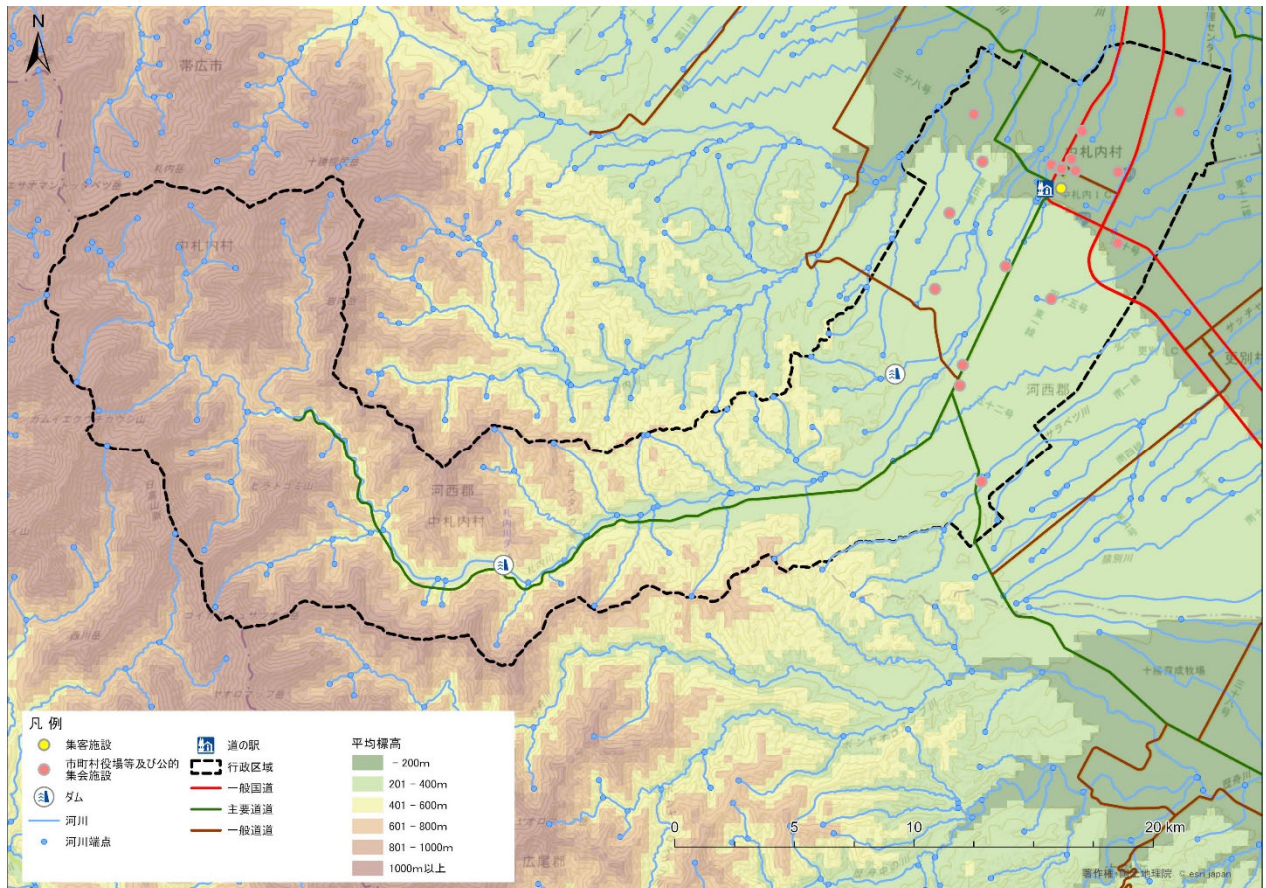
(4) 地形・地質

中札内村の西側は、日高山脈による山岳地帯が広がり、東部は概ね平坦な地域が広がっています。また、村の中心部は、日高山脈から流れてくる札内川が貫流し、十勝平野へ流れ出ていきます。村の名前も、札内川の中流に位置することから名づけられています。

村の地質は、札内川流域の河成沖積土壌以外は、すべて火山灰土に属し、旭岳、十勝岳、樽前山島による火山灰が降灰堆積したものとされています。風化は進んでおらず、地味はやせ、粘着力の低い土壌になっています。札内川の川沿い一帯は、概ね肥沃で、農耕に適していることもあり、村の開拓も札内川沿いから始まっています。

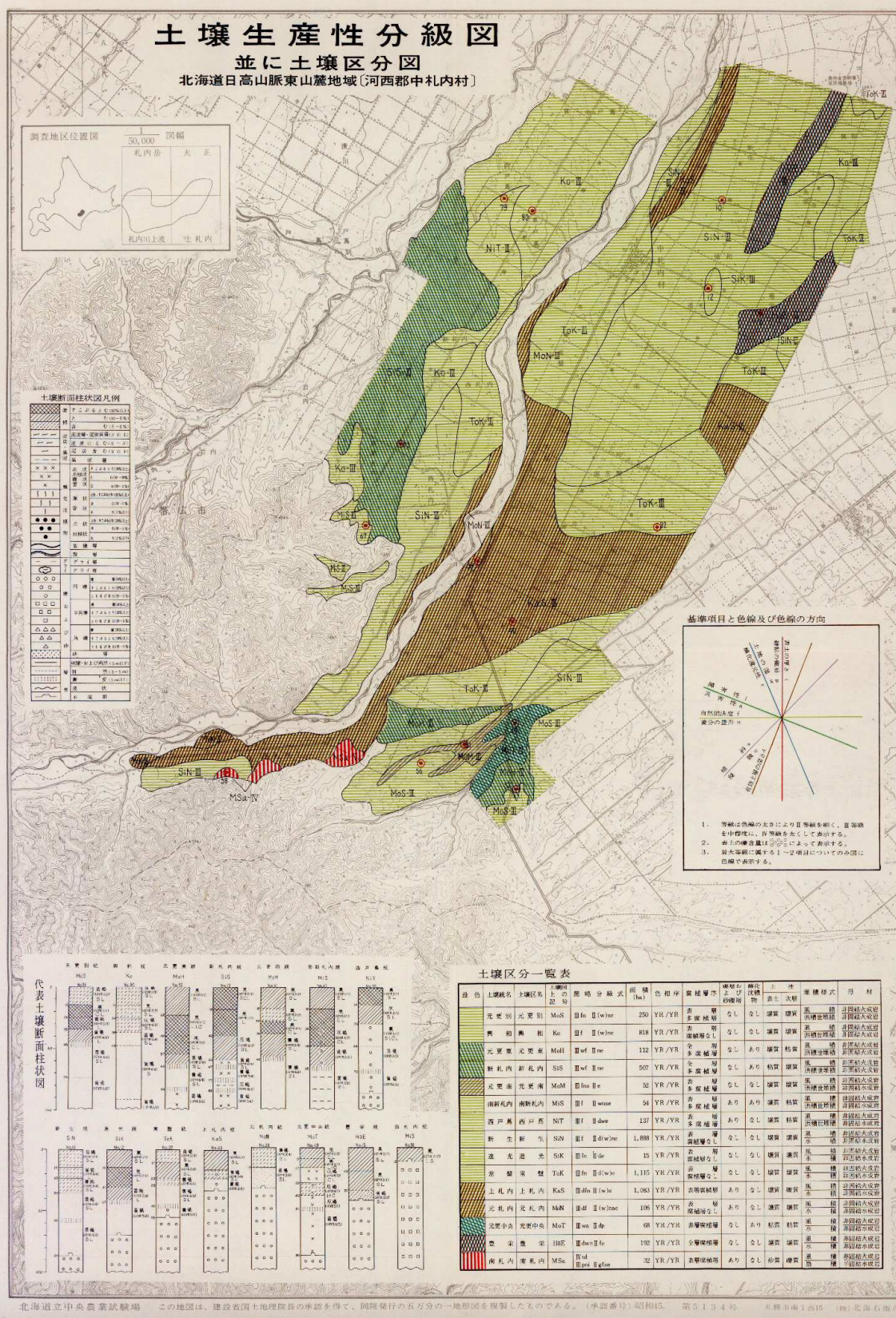
豊富な水資源に恵まれ、広大な農地が広がり、小麦、甜菜、馬鈴薯、豆類の畑作物を主体に、枝豆や長芋等の野菜を組み合わせた畑作経営や乳用牛、養豚、養鶏などの畜産経営が行われています。

豊富な水資源に恵まれその流域には、広大な農地が広がり、小麦、甜菜、馬鈴薯、豆類の畑作物を主体に、枝豆や長芋等の野菜を組み合わせた畑作経営や乳用牛、養豚、養鶏などの畜産経営が行われています。



出典：Esri Japan ・国土数値情報

図 2-6 土壌図 中札内村の標高地形図



出典：北海道立総合研究機構

図 2-7 土壤図

2 中札内村の景観特性の調査・分析(基礎調査)

<中札内町 (638)>

土壌区名	略号	簡略分級式	(ha)	農耕地土壌分類第二次案改訂版	土壌統名	コード	北海道二次案分類	コード
地目: 畑								
元更別	MOS	ⅢnⅡfse	285	表層多腐植質黒ボク土	藤沢統	03C10	ローム質黒色火山性土	2422
興和	KO	Ⅱfne	924	淡色黒ボク土	清水沢統	03E40	ローム質褐色火山性土	2322
元更東	MOH	ⅢwfⅡne	128	厚層多腐植質多湿黒ボク土	厨川統	04A06	湿性厚層黒色火山性土	2713
新札内	SIS	ⅢwfⅡne	579	厚層多腐植質多湿黒ボク土	厨川統	04A06	湿性厚層黒色火山性土	2713
元更南	MOM	ⅢnsⅡfe	59	中粗粒褐色森林土	壹場統	06B13	火山灰表層酸性褐色森林土	3232
南新札内	MIS	ⅢfⅡwnse	62	細粒灰色地土	南達川統	07A02	火山灰表層疑似グライ土	4131
西戸葛	NIT	ⅢfⅡdwe	156	中粗粒灰色地土	長盤統	07B08	火山灰表層疑似グライ土	4131
進光	SIK	ⅢnⅡdfe	17	中粗粒褐色低地土, 斑紋なし	芝統	12B03	火山灰表層褐色低地土	7133
新生	SIN	Ⅱdfne	2130	中粗粒褐色低地土, 斑紋なし	飯島統	12B04	火山灰表層褐色低地土	7132
上札内	KAS	ⅢdnⅡxfe	1213	礫質褐色低地土, 斑紋なし	二条統	12C06	火山灰表層褐色低地土	7132
常盤	TOK	ⅢnⅡdfe	1272	礫質褐色低地土, 斑紋なし	二条統	12C06	火山灰表層褐色低地土	7132
元札内	MON	ⅢdⅡnae	121	礫質褐色低地土, 斑紋なし	二条統	12C06	火山灰表層褐色低地土	7132
南札内	MSA	ⅣtdⅢpⅡgxise	37	礫質褐色低地土, 斑紋なし	外城統	12C07	火山灰表層褐色低地土	7131
元更中央	MOT	ⅢwaⅡdpf	78	細粒灰色低地土, 灰褐色	諸橋統	13D13	灰色低地土	7214
豊栄	HOE	ⅢdwnⅡdpf	219	灰色低地土, 斑紋なし	真宮統	13I36	火山灰表層灰色低地土	7232

畑計: 7280

中札内町 計: 7280 ha

生産力可能性分級基準

等 級	基 準
第 I 等 級	十分な収量を上げ、また十分な土壌管理を行う上に、土壌的にみて殆どあるいは全く制限因子あるいは阻害因子がなく、また土壌悪化の危険性もない良好な耕地とみなされる土地
第 II 等 級	十分な収量を上げ、また十分な土壌管理を行う上に、土壌的にみて若干の制限因子あるいは阻害因子があり、あるいはまた土壌悪化の危険性が多少存在する土地
第 III 等 級	十分な収量を上げ、また十分な土壌管理を行う上に、土壌的にみてかなり大きな制限因子あるいは阻害因子があり、あるいはまた土壌悪化の危険性のかなり大きい土地
第 IV 等 級	十分な収量を上げ、また十分な土壌管理を行う上に、土壌的にみてきわめて大きな制限因子あるいは阻害因子があり、あるいはまた土壌悪化の危険性がきわめて大きく、耕地として利用するには、きわめて困難と認められる土地

基 準 項 目	表 示 記 号	I	II	III	IV	備 考
表(作)土の厚さ	t	25~15cm	15cm以下	25~15cm	15cm以下	有層土層の厚さがIVの場合はIVとする
有層土層の厚さ	d	100~50cm	100cm以上	50~25cm	25~15cm	50~25cm
表(作)土の礫含量	g	20%以下	5%以下	10%以下	20%以下	1) 含量は礫の土層断面中の重量割合を求す 2) 表土の10~50% 普通細の5~50% 桑 茶の20%以上 栗樹の10%以上については礫の大きさ、風化の程度 含量の多少を考慮して等級を決定する
耕 転 の 難 易	p	耕転、時土が容易である	耕転、時土がやや困難である	耕転、時土が困難である		
浸 水 機 構 性	i	小~中	大	大	大	表(作)土の土性 粘着性及び風乾土の硬さから決定する
風 化 速 度 性	r	風化が速く水層の礫層が殆どない	風化が速く水層の礫層が殆どない	風化が速く水層の礫層が殆どない	風化が速く水層の礫層が殆どない	表(作)土の土性 粘着性及び風乾土の硬さから決定する
土 地 の 乾 涸	w	乾燥または過干のおそれがないか、又は少ない	乾燥のおそれがある過干のおそれがある	乾燥のおそれが多い過干のおそれが多い	乾燥のおそれが多い過干のおそれが多い	浸水性、保水性、透水性(土壌の年間わたる水素移動量)から決定する
自 然 肥 沃 度	f	高	中	低		肥力、面定方および土層の構造状態から決定する
養 分 の 豊 否	n	多	中	少		浸水性、保水性、透水性(土壌の年間わたる水素移動量)から決定する
障 害 性	i	有害物質および物理的障害なし	障害程度の小さい有害物質あり、または除去が困難な物理的障害	障害程度中位の有害物質あり、または除去が困難な物理的障害	障害程度大きい有害物質あり	1) 有害物質とは重金属、農薬、石油類、有機溶剤、その他有害物質をいう 2) 物理的障害とは地盤下50cm以内にある土の崩壊、硬い土層、あるいは土壌の固結、その他有害物質をいう
災 害 性	a	増湿、地すべり等の災害を受ける危険性が少ない	増湿、地すべり等の災害を受ける危険性が少ない	増湿、地すべり等の災害を受ける危険性が少ない	増湿、地すべり等の災害を受ける危険性が少ない	増湿、地すべり等の災害を受ける危険性が少ない
傾 斜	s	3°以下	3°~8°	8°~15°	15°~25°	1) 分級は自然傾斜を主とし、傾斜の方向、人為的傾斜を考慮にいれて総合的に行う 2) 傾斜の3°~25°については、傾斜、傾斜方向、傾斜の長さ等を考慮して等級を決定する
使 用 性	e	使用のおそれがない	使用のおそれがある	使用のおそれが多い	使用のおそれが多い	分級は使用性を主とし、耐水性、耐風性を考慮して行う

基 準 項 目	要 因 項 目	1	2	3	4	備 考
浸 水 機 構 性	作土下50cmの土性	S C, L I C, S I C, H C	S C L, C L, S I C L	S L, F S L, L, S I L, S, L S	中	
浸 水 機 構 性	作土下50cmの硬さ	硬度計の読み 25 以上	硬度計の読み 24~11	硬度計の読み 10 以下	硬	
浸 水 機 構 性	作土の易分解性有機物含量	風乾生成量及び高温生成量が10以下	風乾生成量が10~20及び高温生成量が10~15	風乾生成量が20以上及び高温生成量が15以上	多	乾土100g当りのNH ₄ -N生成量(mg)
浸 水 機 構 性	作土の遊離酸化鉄含量	1.5 以上	1.5~0.8	0.8 以下	少	乾土%
元 性	グ ラ イ 化 度	50cm以内にグライ層のないもの	50cm以内より下部にグライ層のあるもの	全層グライ、作土直下からグライ層のあるもの	強	1) 作土グライ、または作土直下のみグライは、浸透度を1とする 2) 浸透、浸透層はグライ層に準じて数値を 3) 浸透層が1でも作土の地下水位が高く、排水不良の場合は浸透度を2に下げる
自 然 肥 沃 度	保 肥 力	C E C 20以上	C E C 20~6	C E C 6 以下	小	作(表)土の基質基肥換算量(m e)から決定する
自 然 肥 沃 度	固 定 力	リン酸吸収係数700以下	リン酸吸収係数700~1500	リン酸吸収係数1500~2000	中	リン酸吸収係数2000以上
自 然 肥 沃 度	土 層 の 塩 基 状 態	p H (H ₂ O) 5.5 以上で置換性石灰飽和度50%以上	p H (H ₂ O) 5.0~5.5で置換性石灰飽和度50~30%	p H (H ₂ O) 5.0 以下で置換性石灰飽和度30%以下	不良	
養 分 の 豊 否	置 換 性 石 灰 含 量	200mg以上(乾土100g 当り)または置換性石灰飽和度50%以上	200~100mg(乾土100g 当り)または置換性石灰飽和度50~30%	100mg以下(乾土100g 当り)または置換性石灰飽和度30%以下	少	
養 分 の 豊 否	置 換 性 苦 土 含 量	2.5 mg以上	2.5~1.0 mg	1.0 mg 以下	少	乾土100g 当り
養 分 の 豊 否	置 換 性 加 肥 含 量	1.5 mg 以下	1.5~8 mg	8 mg 以下	少	乾土100g 当り
養 分 の 豊 否	有効態リン酸含量	1.0 mg 以上	1.0~2 mg	2 mg 以下	少	乾土100g 当り
養 分 の 豊 否	有効態窒素含量	風乾生成量20mg 以上	風乾生成量20~10mg	風乾生成量10mg 以下	少	乾土100g 当り
養 分 の 豊 否	有効態有機物含量	1.5 mg 以上	1.5~5 mg	5 mg 以下	少	乾土100g 当り
養 分 の 豊 否	養 分 要 素 含 量	欠乏症状がなく、あるいは殆どない	欠乏症状が若干発生する	欠乏症状が著しく発生する		
傾 斜	傾 度	p H (H ₂ O) 6 以上または Y ₁ 3 以下	p H (H ₂ O) 6~5 または Y ₁ 3~6	p H (H ₂ O) 5~4.5 または Y ₁ 6~15	強	p H (H ₂ O) 5~4.5 以下または Y ₁ 15 以上

図 2-8 土壌区一覧・生産力可能性分級基準

出典：北海道立総合研究機構

(5) 日高山脈

北海道中央南部に位置する日高山脈は、新第三紀以降に大陸プレート同士の衝突によって生じた大起伏山地です。稜線部から山麓部にかけては自然度の高い森林や河川が存在しており、シマフクロウやクマタカ等の生態系上位種や、特異な地質や環境に対応した固有種及び希少種の生育地等となっています。海岸部には襟裳岬等の発達した海食崖や海成段丘が見られ、浅海域から高山帯に至る生態系が流域単位で健全な状態で存在しているなど、多様で良好な自然環境を擁しています。

日高山脈の稜線部には北海道で唯一の典型的な氷食地形が分布しており、カール(圏谷)などのダイナミックな地形と高山植物や雪氷とが織りなす山岳景観は、当該地域における景観要素の核心です。さらに、平野部から日高山脈を眺望した際には、延々と連なる印象的な山並みが見られ、「原風景」として地域の人々に深く意識されているほか、日高山脈はアイヌの文化景観としての価値も高く評価されています。日高山脈襟裳国定公園は、その雄大な日高山脈の山並み、広尾町から襟裳岬にかけての海食崖の続く海岸線一帯、そして花の名山として知られるアポイ岳とその周辺の3つの地区で構成される自然公園です。環境省は、本公園が地殻変動を受けて形成された非火山性連峰を基盤に、山地を核として育まれた深く原生的な森林生態系及び我が国最大の原生流域面積を持つ河川を軸として、これらが海域まで一体的につながる景観を有する、我が国を代表する傑出した自然の風景地であることから、2024年夏に国立公園として新たに指定することを発表しています。

日高山脈を眺望する視点場については、その多くが村道にあります。見る場所、時間、季節によっても様々な景色を楽しむことができます。



出典：中札内村 HP

図 2-9 日高山脈



図 2-10 日高山脈をきれいに撮影できるビュースポットをまとめた資料

出典：中札内村観光協会ホームページ

(6) 札内川

札内川は、中札内村を貫流して、帯広市街部で十勝川と合流する延長 82 km、流域面積 725 km² の十勝川の一次支川です。河床勾配が 1/100 ～1/250 の急流河川であり、川幅は広く砂州の動きが活発であることから、礫河原等の自然裸地が多いといった特徴があります。また、冬と夏の渇水期には札内川すべての水が砂礫の隙間から地下に浸透し、地上の流れが消えてしまうことがあるため、アイヌの人々は乾いた川「サッ・ナイ」という名前を付け、後に「札内」となりました。砂礫を通ることからか、平成 3 年から平成 17 年までの計 8 回、清流日本一に選ばれています。村の開拓は、札内川沿いから始まっており、現在は十勝管区の 1 市 4 町 2 村に水道用水として共有されるなど、人々の生活に欠かせない貴重な水資源にもなっています。上水だけでなく、村内の農地の約 8 割が防除や散水のためのかんがい用水としても利用されています。このように、村の農業・生活を支えている一方で、過去には多くの土砂災害をもたらしており、治水対策の苦労も重ねられてきました。

札内川の礫河原では、ケシヨウヤナギが群落を形成しています。ケシヨウヤナギは、氷河時代から生き延びてきた氷期の遺存種と呼ばれ、国内では貴重な植物であり、北海道の十勝・紋別地方と、長野県上高地のみでしか確認されていません。札内川の礫河原はゴロゴロとした石に覆われており、通常植物が育つには不向きですが、ケシヨウヤナギは他の植物が生育できない礫質の河原で生長することができます。札内川は河床の移動が激しく、洪水による河岸浸食により寿命に満たないうちに倒壊するケシヨウヤナギが多く見られますが、同時に新たな河原が形成され、ケシヨウヤナギの更新に適した環境が提供されます。しかし、礫河原とケシヨウヤナギの群落は平成 18 年以降に減少が確認されており、北海道開発局と地域が連動した保全活動が、現在も継続的に行われています。

(7) 自然植生

大正 8 年の開墾当初、村内にはカシワの原生林とスズランの密生地が広がっていました。カシワは大木が繁茂していて、当時は木炭にする等して生活の糧にもなっていました。今でもカシワ林は防風林として村内に数多く残され、人々の生活を支えています。またスズランやカタクリ、オオバナノエンレイソウやニリンソウ等、貴重な在来の草花の群生地も数多く残されています。

(8) 産業

1) 農業

中札内村の主要産業は農業で、約 7,000 ヘクタールの耕地では、主要作物の小麦、馬鈴薯、ビート、豆類に加え、大根など野菜の作付けも増え安定した輪作体系で農業が営まれています。

畜産関係は生乳、鶏卵、ブロイラー、豚肉生産が盛んです。国際競争という厳しい時代を迎え、経営の合理化、大型化、システム化、生産コストの低減を図るため法人化が進められています。土づくりを農業の基本とし、農業後継者の育成、農村生活環境の整備に力を入れ、独自の中札内農業の振興に努めています。村では、昭和 47 年から重点作物を牛乳、肉豚、養鶏、甜菜、馬鈴薯、小麦、豆類として農家個々の専門化を図りながら、畑作と畜産の連携（有機物の還元）を進める地域複合化路線を進めてきました。家畜のふん尿を畑地に還元し、中札内村の合言葉である「循環農業」の定着です。輪作体系を確立し、生態学的循環の法則を守り、農薬万能主義から脱却を図ります。「土から出たものは土に返せ」を合言葉に「生きた土」でのクリーン農業に取り組み、健康で安全な食生活を提唱しています。中札内村は 1971 年（昭和 46 年）に循環農業を提唱し、酪農・養豚・養鶏の畜産を振興してきました。1985 年（昭和 60 年）には家畜糞尿や農作物残さなどの畑への還元量が 10 アールあたり堆肥換算で 1.9 トンに達したことから「有機農業の村」を宣言しました。

また村では基幹産業である農業の振興を図るため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において更なる産業活性化を目指し、地場産品の高付加価値化や他産業との連携により、新たな販路や消費拡大にも取り組んでいます。

2) 防風林

防風林は強い風を防ぎ、土地の利用度を高める働きをする帯状の森林で、防霧・防雪・防霜にも役立つことが知られています。また平面的で単純な農村地域の景観において、垂直的な構造物として農地に区切りをつけ、景観に独立性と安定感を与えます。

防風林は大きく、幹線防風林（防風保安林）と支線防風林（耕地防風林）の2つに区分されます。幹線防風林は、林帯幅の広い防風林で、北海道では明治 29 年の「殖民地選定及区画施設規定」により設定され、やがて防風保安林として管理されるようになりました。耕地防風林は、幹線防風林の効果を補充する目的で設定された小防風林帯で、昭和初期から民間において1列または2～3列の植栽が行われるようになりました。昭和8年、北海道庁は「耕地防風林造成奨励規定」を定めてその造成を促進し、造林補助金による造成や、市町村が積極的に奨励したこともあって、防風林網は次第に整備されていきました。

農業が基幹産業である中札内村においても、防風林はその発展の歴史を刻む重要な資源として認識されています。中札内村は、帯広市・芽室町とともに、「自然人間の大平原～開拓、そして防風林とその暮らし」をテーマとした「とち大平原田園空間博物館」を2015年に開館しました。この博物館は北海道十勝に広がる美しい風景を博物館の展示物と見立て、「屋根のない博物館」として保全・活用しようという取組で、防風林を教育・観光の資源として活用することが試みられています。防風林は特有な景観を作り出すことで差別化と地域ブランドの向上をもたらし、そのことが食糧生産物の販路拡大にも貢献しています。

表 2-4 とち大平原田園空間博物館に登録されている中札内村の地域資源

名称	特徴
共栄の防風林	開拓当時から残るカシワを主体とする防風保安林です。林内にはエゾヤマザクラやミヤマザクラ、イタヤカエデ等も自生し四季を通して景観を楽しむことのできる防風林です。林床にはベニバナイチヤクソウ、スズラン、ヤマハマナス等の群生も見ることができます。
南常盤の防風林	「シラカバ防風林」と呼ばれており、中札内村を代表する防風林です。カラマツの人工林と外縁のシラカバとのコントラスト、背後に遠く望む日高山脈の山並みと耕作地が織り成す景観は、他の防風林には見られない田園風景を形成しています。

出典：とち田園空間博物館

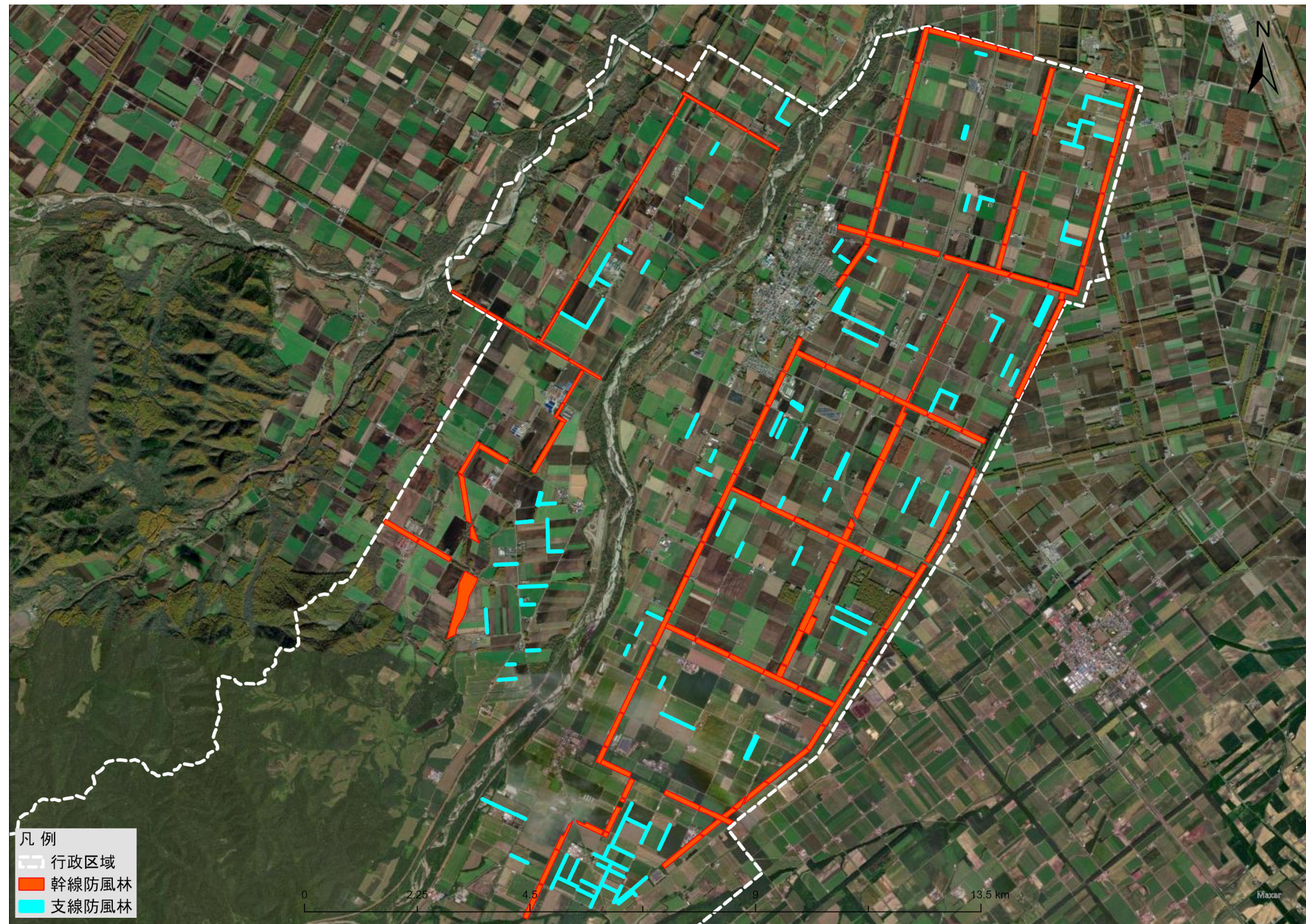


図 2-11 中札内村の防風林の位置図(広域図)

※幹線防風林は下記の出典による

※支線防風林は航空写真で確認された列状樹林帯で防風保安林ではないものを計上した。

出典 : Esri Japan ・ 国土数値情



図 2-12 中札内村の防風林の位置図(市街地周辺)

※幹線防風林は下記の出典による

※支線防風林は航空写真で確認された列状樹林帯で防風保安林ではないものを計上した。

出典：Esri Japan ・国土数値情報

(9) 文化遺産

1) 有形文化財

旧杉村農場サイロ

所在地：中札内村共栄東 3 線

指定年月日：昭和 59 年 10 月 25 日

このサイロは、中札内村酪農の基礎を導入した故杉村吉之助氏が昭和 5 年共栄地区に於いて酪農を営んでいた頃の歴史的建造物です。吉之助氏は酪農を営むかたわらコンクリート会社も経営していたことからサイロ用の L 型ブロックを考案し、特許をとり自ら L 型ブロックを使用した高さ 10.3m、直径外 4.39m、内 3.91m、貯蔵量 91.33 立方 m のサイロを建設したものです。現在のサイロとは構造的にも建築方法も異なることから貴重な建築物として、昭和 59 年 10 月 25 日中札内村有形文化財に指定されました。



出典：中札内村ホームページ

2) 無形文化財

元更別大国神社石見神楽

指定年月日：昭和 37 年 6 月 29 日

大正 6 年島根県からの開拓団（邑智郡日和村より 25 戸）が中札内村元更別に入植しました。未開の地に開拓の歟をふるう入植者にとってはなんの楽しみもなかったことや、新天地に希望と夢を抱いて入植した団体の散逸を防ぐとともに、落伍者をなくし娯楽を与える意味から有志が郷土の神楽の上演を思い立ちました。現在、元更別大国神社石見神楽保存会が伝承しています。



出典：中札内村ホームページ

(10) 観光資源等

村の街並みは、村民、民間企業、村が育んできた「アート」や「花のまちづくり」の文化によって彩られています。民間企業の美術館や野草園が点在しており、美術やガーデンといった企業の戦略とまちづくりの方向性が融合することで、「アートの村」としての魅力発信につながっています。開拓民であり画家でもある坂本直行の絵には十勝を代表する山野草が描かれており、その花々をテーマとした「六花の森」は、クロアチアの古民家を移築したギャラリーも点在していて村を代表する観光スポットになっています。

中札内村は 2016 年、失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観・文化を守りつつ、最も美しい村としての自立を目指す「日本で最も美しい村」連合にも加盟しました。未来に残したい村の資源に、防風保安林に守られた農村原風景とともに北の大地を彩るアートと文化を挙げています。

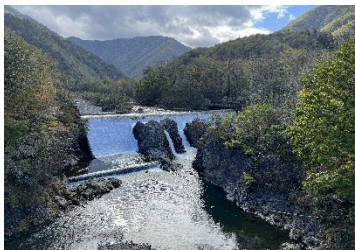
		
ピョウタンの滝	防風林の夕景	一号砂防ダム
		
鉄道記念公園	一本山展望タワーからの眺望	道の駅なかさつない
		
桜六花公園	六花亭アートヴィレッジ 中札内美術村	六花の森
		
開拓記念館	とかち田園空間博物館豆資料館	花畑牧場

図 2-13 中札内村の観光資源

(11) 土地利用計画

1) 土地利用概況

中札内村の土地利用は、総面積の 292.58 km²のうち、23.7%が畑であり、宅地は 1.3%となっています。

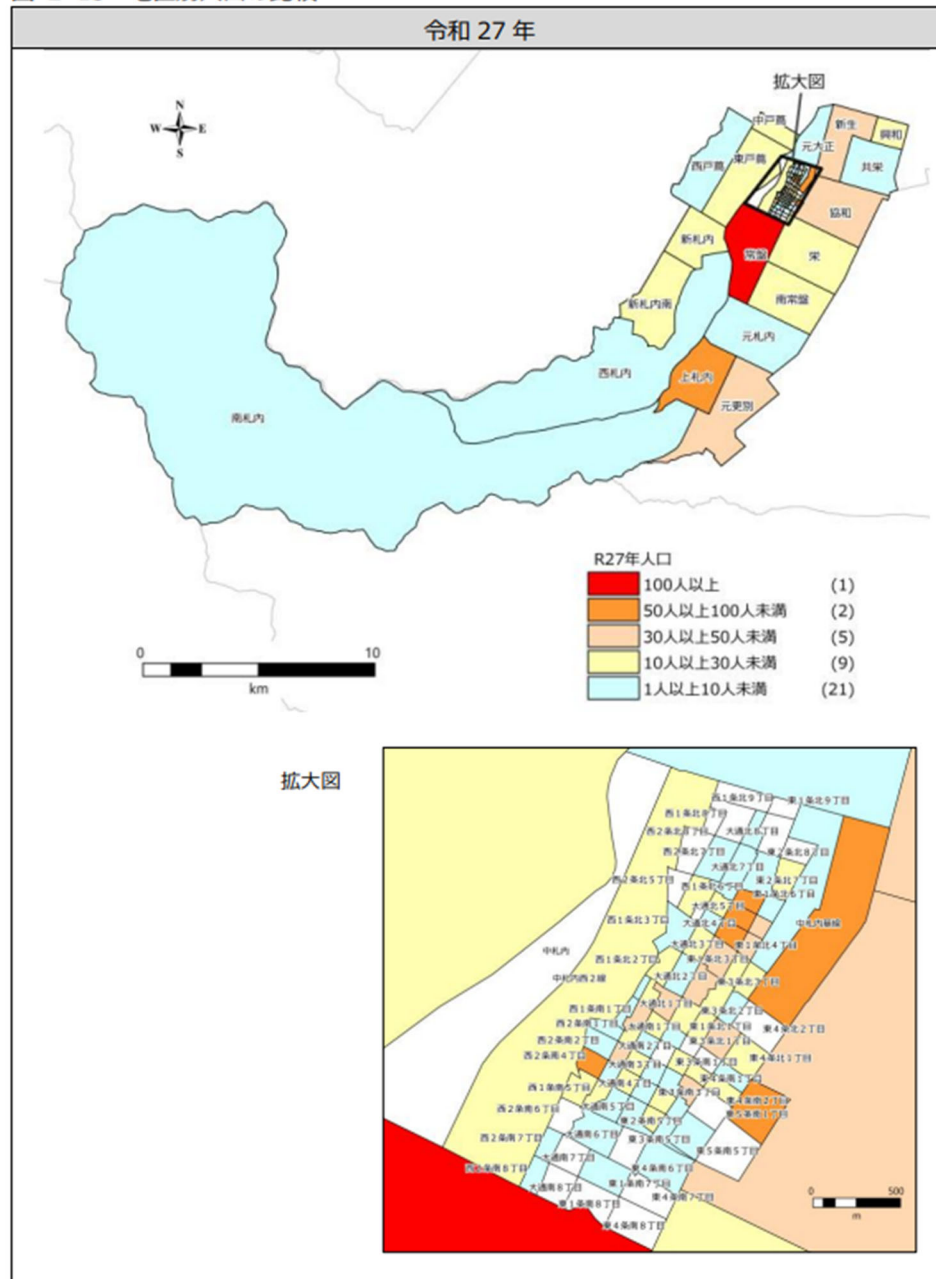
表 2-1 地目別面積

(単位: km²)

	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	総面積
面積	69.45	3.79	1.91	187.31	0.73	3.58	2.68	23.11	292.58
	23.7%	1.3%	0.7%	64.0%	0.2%	1.2%	0.9%	7.9%	100.0%

資料: 令和 4 年北海道統計書

図 2-13 地区別人口の比較



出典: 中札内村住生活基本計画

2) 農村部の法規制状況

中札内村では、約 3 割が農用地区域(農業振興地域)に指定されており、開発行為の制限や農地等の転用の制限などによって良好な農業景観が守られています。

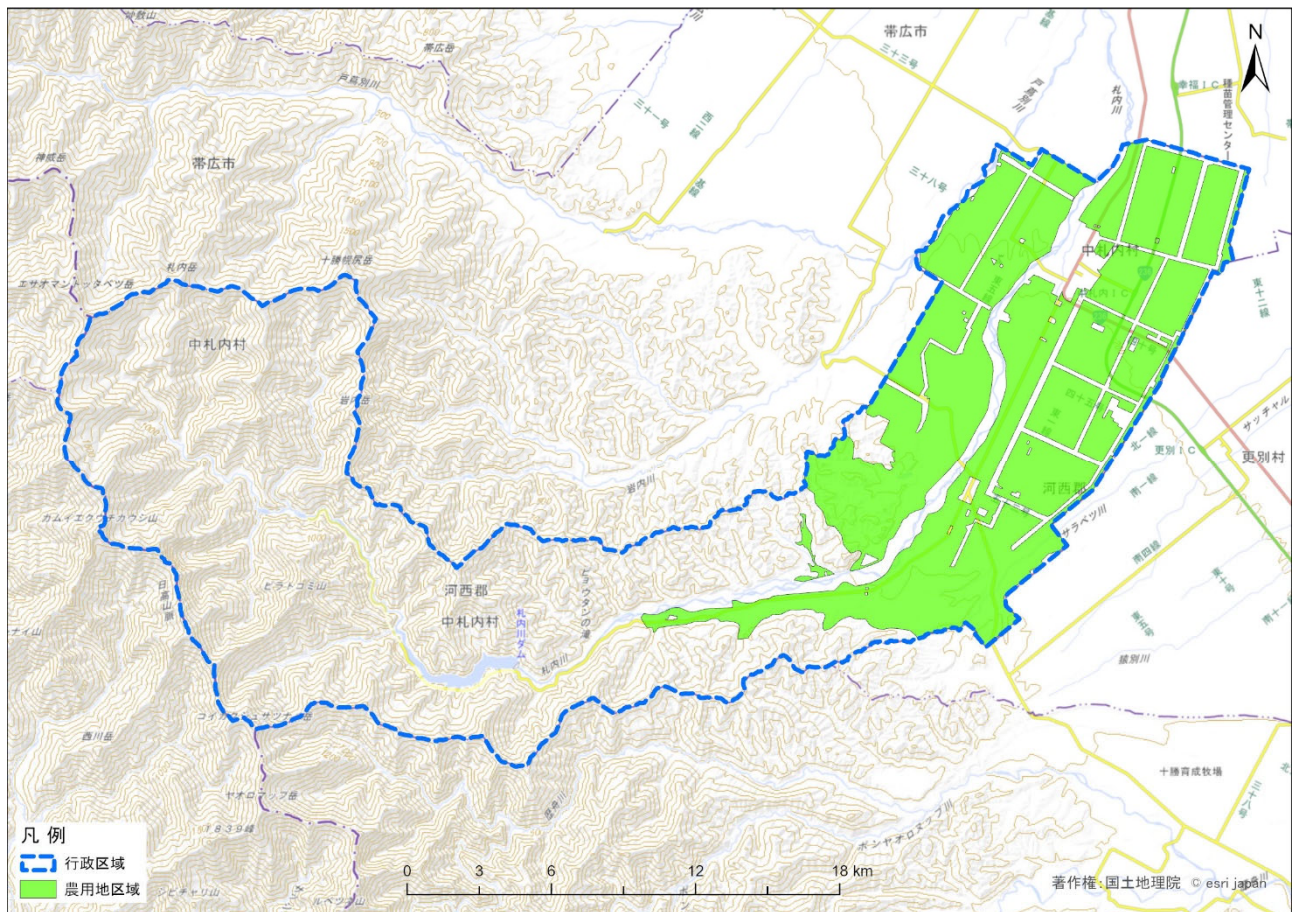


図 2-14 農用地区域の規制状況図(村内全域)

出典: Esri Japan ・ 国土数値情報

3) 森林部の法規制状況

中札内村の西部には日高山脈があり、国有林野として日高山脈森林生態系保護地域(保存地区)、日高山脈森林生態系保護地域(保全利用地区)、国有林が指定されています。国有林 14,072ha、公有林 1,303ha、私有林 1,137ha となっており、大部分が国有林です。

表 2-5 森林地域、国有林、民有林の面積

森林地域面積	国有林	民有林		
		道有林	市町村有林	私有林
18,861	16,716ha	0ha	1,262ha	883ha

出典：北海道

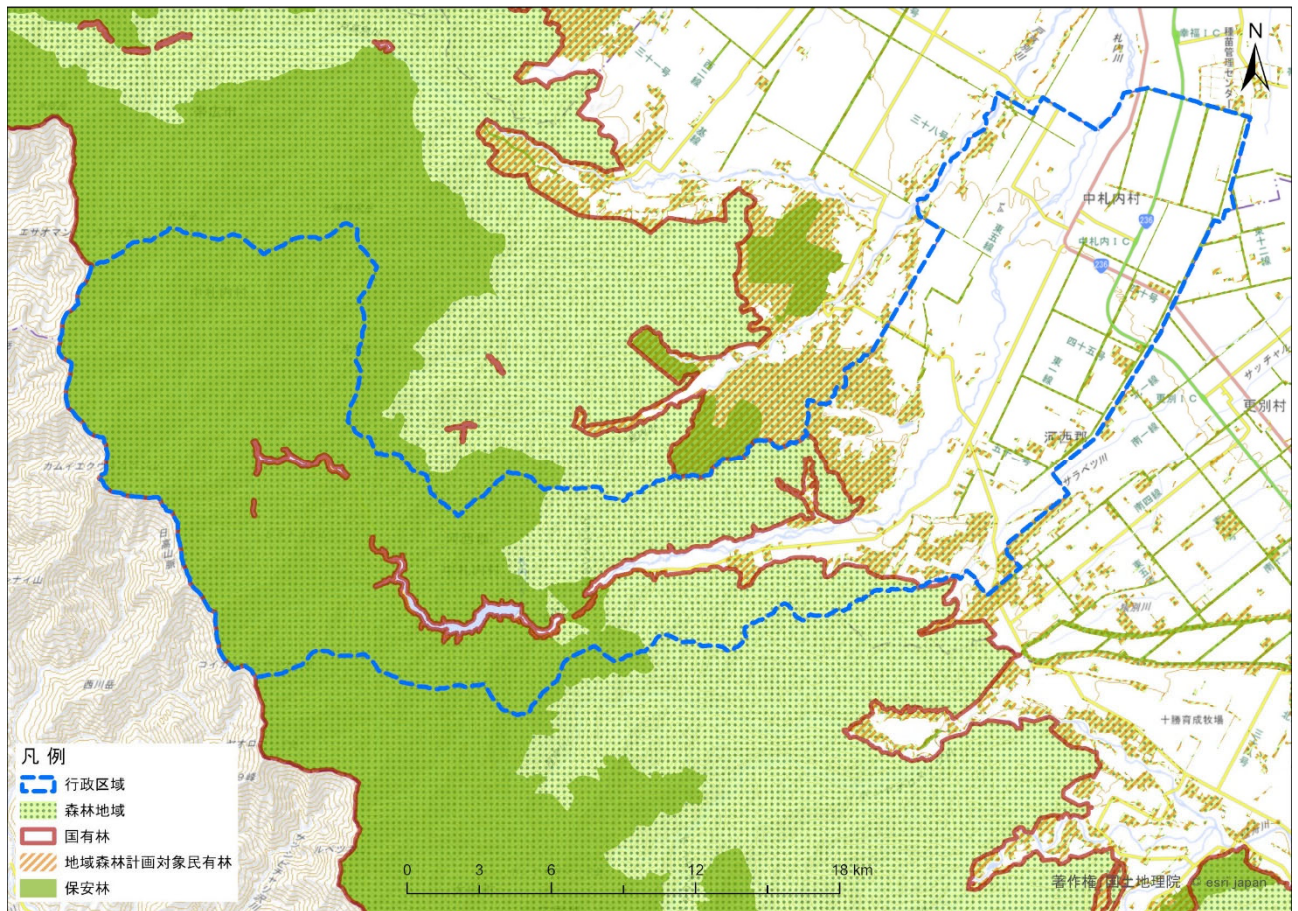


図 2-15 森林の区域図

出典：Esri Japan・国土数値情報

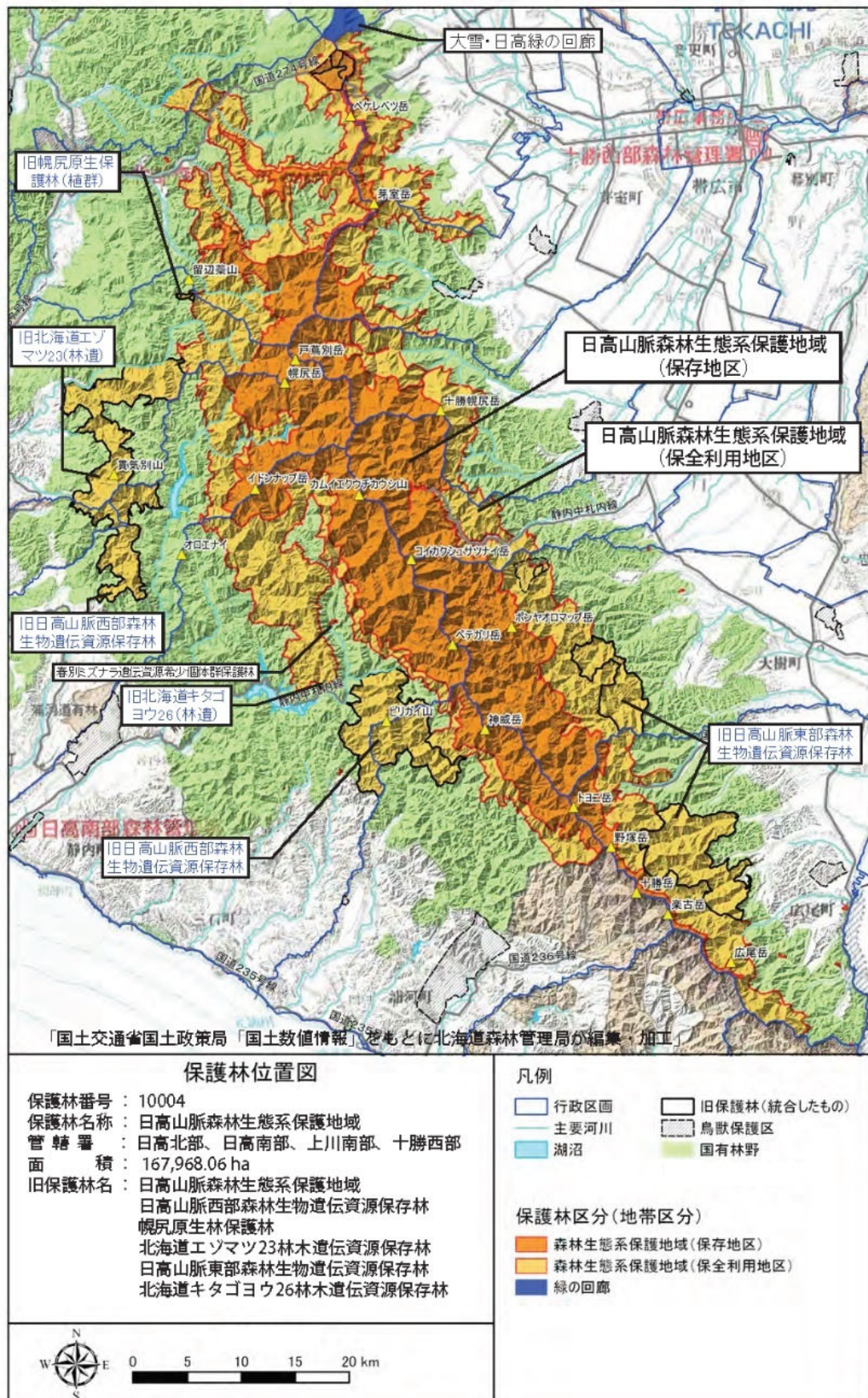


図 2-16 森林分布図

出典：北海道森林管理局ホームページ

2.2.2 現地調査

関連計画、文献調査等により確認された景観資源を中心に、時期的に確認可能なものについて現況調査を行い表 2-6 にまとめました。（現地写真等は巻末資料参照）

表 2-6 現地調査結果まとめ

調査日	景観資源	特徴	課題
10月12日	日高山脈襟裳十勝国立公園（仮称）	日高山脈が180°ずっと続く景観。その手前に防風林と畑、他にもサイロや住宅等がある。中札内村を代表する景観。	眺望点となる国道沿いに電波塔や電柱、伐採され樹形が乱れたシラカバ等の景観阻害要素がある。特に国道で帯広市から中札内村に入った直後にシラカバ並木があり、中札内村の玄関の顔にふさわしくない景観となっている。
10月12日	日高山脈		
10月12日	十勝ボロシリ岳（ピリカノカ）		
10月12日	札内川	透き通った川面と河畔林が美しい。貴重なケショウヤナギが見られる。	札内川が見られるのは主に橋の上か上流の札内川園地で、安全に札内川に近づける場所が限られている。
10月12日	ピョウタンの滝（札内川園地）	迫力ある滝とごつごつとした荒々しい岩肌、河畔林が特徴的。	滝までが遠い。視点場が限られている。
10月12日	札内川河畔林	透き通った川面と河畔林が美しい。キャンプシーズンは多くの人で賑わう。	電線が景観阻害要因。
10月12日	桜六花公園	平成12年（2000年）に民間企業から寄贈された約1,000本のエゾヤマザクラを植樹した公園。村内の桜の名所として親しまれている。	道路沿いの桜並木では電線や電柱が景観阻害要因となっている。
10月12日	六花亭アートヴィレッジ 中札内美術村	柏林に囲まれた緑豊かな空間に、美術館とレストランが立ち並ぶアートの森。歴史を感じさせる古建築の美術館や点在する彫刻群が自然の中に溶け込み、ゆったりと芸術を鑑賞できる。	
10月12日	六花の森	エゾリンドウ、ハマナシ、オオバナノエンレイソウ、カタクリ、エゾリュウキンカ、シラネアオイ等、山岳画家・坂本直行が六花亭の包装紙に描いた北海道の山野草が四季折々咲き誇る。園内にはクロアチアの古民家を移築したギャラリーが点在。	
10月12日	花畑牧場	観光牧場。大きな赤い屋根の木造の建物が立ち並び、綺麗な花々が植栽され、目の前にはヤギやアルパカ等がいる牧場が広がっている。外国の田舎まちを彷彿とさせるのどかな景色である。	
10月12日	グランピングリゾートフェアリー エンドルフ	森に囲まれたグランピングリゾートで、ドイツ様式のコテージが建ち並び、リスや野鳥など多くの生き物たちに会うことができる。	
10月13日	新札内丘陵	手前から畑、防風林、奥に日高山脈が見える。中札内村を代表する景観。	元々は看板が設置されていたが、現在はなくなっている。眺望点が分かりにくい。
10月13日	カシワ林・カシワ	大きな葉が特徴的で、適度に日差しが入り、林床が明るいため、根元に多くの植生が見られる。美しい樹林帯。	
10月13日	防風林（防風保安林・耕地防風林・ふれあいの森・共栄）	ふれあいの森 ・防風林が立ち並び、様々な生き物の棲み処になっている。 共栄の防風林 ・防風林が立ち並び、様々な生き物の棲み処になっている。 その他 ・耕地防風林が立ち並んでいる。美しいシラカバ並木は主に村道上で見られる。	ふれあいの森 ・林内が鬱蒼としていて入っていきにくい。 共栄の防風林 ・林内が鬱蒼としていて入っていきにくい。 その他 ・耕地防風林の伐採跡が見られる箇所もあり、減少が懸念される。国道沿いでは不細工に伐採されたシラカバ並木が目立つ。
10月13日	農地（平坦地形・波状地形・碁盤目状）	畑と防風林、農作業車や収穫した野菜が積まれていることもある。中札内村の原風景の一つ。	国道からの景観は、電柱や鉄塔等が多く建ち並んでいて景観阻害要素となっている。
10月13日	作物（まめ・メークイン・ひよこ豆）	畑の脇に、その季節でとれた野菜が積まれているのを見ることができる。	
10月13日	牧草地（大規模草地育成牧場）		
10月13日	牧草ロール・麦稈ロール	広大な畑の中にぼつぼつと牧草ロールや麦稈ロールが転がっている景色は十勝を代表する景観。	近年の機械化・大規模化に伴い、ロールを作ったあと置いておかずすぐに回収されるため、この景色を見る機会が減っている。

調査日	景観資源	特徴	課題
10月13日	中央公園	伏流水由来の流れである恵津美川（えつみがわ）と札内川の間にある公園。広々とした芝生広場とステージやモニュメントのあるサチナイ広場がある。	維持管理の継続。
10月13日	鉄道記念公園	旧国鉄広尾線中札内駅跡地に「村民目線を重視した、子どもたちが徒歩で行ける手軽な公園」を目指して整備された。貨車を使った休憩所の他、子どもたちが集まる広場として様々な遊具が立ち並ぶ。青空と美しい芝生、カラフルな遊具等が映え、子どもたちで賑わう。	広大な芝生が広がっているため維持管理が必要。
10月13日	札内川総合運動公園	マラソン大会やソフトボール大会等、様々なイベントが開催される公園。広大な芝生が広がるが、とてもきれいな状態で維持されている。	フェンス等施設が古くなってきている。
10月13日	旧杉村農場サイロ（村有形文化財）	中札内村の酪農の先駆者・杉村吉之助が昭和5年に建造したサイロで、当時杉村氏が経営していたコンクリート会社の特許製品であったL型ブロックを使用しており、構造的にも希少な酪農に関する歴史的遺産建造物。昭和59年には、中札内村文化財として指定。	
10月13日	中札内神社	昭和24年8月9日神社創立の申請を出願し、昭和25年5月27日創立を許可される。天照大神を主祭神として奉斎し、惟神の大道、神恩を奉謝し神徳を受け中札内一円の産土神として祭事が行われている。	
10月13日	文化創造センター	中札内文化創造センターは、生涯学習と交流の拠点施設として平成9年に竣工した。多目的ホールゾーン・図書館ゾーン・生涯学習ゾーン・ギャラリーエントランスホールゾーンからなり、コンサートや絵画・工芸の発表等様々な利用がされている。敷地内には丁寧に管理された広大な美しい芝生と樹木が立ち並ぶ。	施設の維持管理と活用。
10月13日	道の駅 なかさつない	中札内村の新鮮な地場産食材を使用したレストランのほか、郷土の歴史的建造物や芝生広場や池など、憩いの場としても利用されている。エントランス空間には村民らの手で植えられた美しい花壇が出迎えてくれる。	

2.3 中札内村の景観特性と課題の整理

2.3.1 景観資源の抽出・整理

中札内村の景観特性を把握するために、上位関連計画等の既往調査や文献、さらには現地調査や住民対象のアンケート調査やワークショップ結果等を踏まえ、景観資源の洗い出しを行い、整理しました。

整理結果を次頁に示します。

表 2-7 主な景観資源の各調査結果まとめ

景観資源名	中札内らしい・保全・大切・活用したい景観資源			村民の捉え方	
	関連計画等	アンケート	ワークショップ	アンケート調査	ワークショップ
日高山脈襟裳十勝国立公園（仮称）	○	○		・ NP0 ひがし大雪自然ガイドセンターのような団体が山岳センター（又は市街地内）に居て欲しい。日高山脈はレベルの高い山なので、あえて頂上を目指さない登山ツアーなどを行って幅広い人々に日高山脈の素晴らしさを体感して欲しい。	
日高山脈	○	○	○	・ 上札内より見た時、日高の山を西方向より雲が滝のように流れ込んで来る様子。追記）上札内市街に入る手前に良く出るダブルレインボー。 ・ 帯広に行く道筋（元大正あたり）から見た日高の朝日に照らされた時や夕日の時。 ・ 道の駅から上札内方向に行く時の山並（朝日の時や夕日の時）展望が広がりインパクトがある。 ・ 村道から見える十勝ポリシリ岳と農村風景（畑）。建物や電線がなく風景だけが目に入るスポット。 ・ 天気の良い日の景観に感動する。 ・ 日高山脈とパッチワークのような畑（サイロやトラクターも良いですね）。季節によって印象が変わり、日常生活から生まれる風景は素敵です。 ・ 中札内村の象徴。	・ 村から見える日高山脈の山々、まさに中札内といえぱの景観だと思う。村民それぞれお気に入りのビュースポットがあり、山々を呼び分けてそれを愛でている。 ・ 高規格から見る日高山脈も素晴らしい。 ・ できるだけ今の生態系を残しつつ保全していきたい。
十勝ポリシリ岳（ピリカノカ）	○	○	○	・ 好きな風景。	
札内川	○	○	○	・ 両側の林は見ごたえがある。	・ 札内川はきれいな川である。他にもきれいな川がある。
ピョウタンの滝（札内川園地）	○	○	○	・ 迫力がある。	
カシワ林・カシワ	○	○	○	・ カシワの木保全したいなら落葉などきちんと片付けて欲しい。それぞれが有料ゴミ袋に入れて捨てなければならないのは納得出来ない。 ・ 日高山脈とマッチする。 ・ 好きな風景。 ・ 緑色の時も紅葉してもきれいだから。夏の緑と青空のコントラストきれい。 ・ 十勝らしい。 ・ 好きな風景です。特に紅葉する頃、いろんな色（グラデーション）が見られるのが美しい。	
スズラン	○	○	○	・ 十勝らしい。再び幸福がくるという言い伝えを活用してみては。	
野の花		○		市街でもどこでも春にニリンソウやエゾエンゴサク等の野の花が咲いている	
植生全般			○		・ 村内にはカタクリやオオバノエンレイソウ、ニリンソウ自生植物の群生地が数多くある。春の野草が咲く環境とその風景が美しい。守らないと無くなってしまうというはかなさ・弱さもよい。自然の穴場スポットで、しっかりと管理をすると、地域でもトップレベルの自生地になるのではないかという意見もある。
農地（平坦地形・波状地形・基盤目状）	○	○	○	・ 日高山脈とパッチワークのような畑（サイロやトラクターも良いですね）。季節によって印象が変わり、日常生活から生まれる風景は素敵です。	・ 飛行機からの眺めが良い。 ・ ゴミを引き取ってくれる取組みがあるところもある。 ・ 農地を見ると帰ってきたと思う。視覚だけではなく、空気やにおいも大切な要素となっている。農地では特に空が高いと感じる。 ・ 観光資源にもなると思うし、お金になれば農家も動くと思う。
農道		○		・ 季節の移り変わりに畑の花の色を見るのが好きなので。	・ 象徴でありシンボルである。農家にとっては仕事場でもあり、毎日使うから大切。農家だけではなく、みんなのものであると感じている。堤防からの景色も良い。 ・ 不便は困るが、ほどよく整備するのがよい。砂利道は整備されすぎない景観として残していきたい。 ・ 中札内らしい景観として PR していきたい。観光と農地の融和が大切。
堤防			○		・ 堤防からの景色も良い。

景観資源名	中札内らしい・保全・大切・活用したい景観資源			村民の捉え方	
	関連計画等	アンケート	ワークショップ	アンケート調査	ワークショップ
防風林（防風保安林・耕地防風林・ふれあいの森・共栄）	○	○	○	・ 十勝らしい。	・ 一番目に入る景色であり、防風林を見ると十勝に帰ってきたと思う。広々とした印象で、畑との眺めが良い。四季の変化が良いし、きれいだと思う。上空から見た防風林・飛行機からの眺めも良い。残してほしい景観である。 ・ 美しいだけではなく、効果も様々ある。風の被害から守ってくれるし、農業にとっても良い面があると思う。またエゾモモンガやナキウサギなど動物も遊びにくる。少しでも豊かな生態系を人工の畑の中でも保てるスペースがあり続けてほしい。・ 農業で GPS を使うようになり、防風林が電波を阻害するため切られるようになった。多くの防風林が失われているのはとても淋しい。
シラカバ	○	○		・ 絵になる景観だから。 ・ 好きな風景。 ・ 緑色の時も紅葉してもきれいだから。夏の緑と青空のコントラストきれい。 ・ シラカバの木から樹液(水)を抽出している人を見たので。	
植栽		○	○	・ 町、村の人の愛あふれるあたたかさが感じられる。	・ 街路樹や道ばたの花が美しい。もっともっと見たい。
市街地の樹木		○		・ 野うさぎキッチンの裏にあるサクラの木。形もバランスも大きさも見栄えもとにかく良い。	
駅前通り	○			・ 中札内市街大通の歩道にある花壇等(道の駅含む)街中に入ったとたん、道路脇が華やかな花で飾られていてすばらしい。	
ときわ野		○		・ 新しい住宅と日高山脈の景観が良い。 ・ 新しい団地。	
市街地		○		・ 今の時代のんびりと寝転がっている光景に感動したので(人にも動物にもやさしいところなのと思った) ・ ポイ捨てゴミ少ないです。	・ 通り過ぎるときの街並みと風景が良い。もっと人が集まるイベント活動があるとよい。
文化創造センター	○	○	○	・ イベントで活用されてみんなの思い出になる場所だから。 ・ センターの外観は素敵。 ・ 中に入ったら色んな景気の写真があるから。 ・ とても綺麗な景色。 ・ 芝生がきれいで手入れされているから。 ・ 文創前の広場の景観が良い。図書館からながめるのが良い。 ・ 文創と周辺の並木道。解放感があり、外の景色と融合している。 ・ 自然との調和を感じます。(一部人工の部分もありますが) ・ 風景が紅葉の期季になるときれいだから。	
道の駅 なかさつない	○	○	○	・ 村に住む前に中札内を通ったときに道の駅を通してやっと中札内についたと分かったから。 ・ そばを食べに行って大昔の開拓を思い浮かべる。 ・ 小中学校、保育所、文化創造センター、マックスバリュ等が近隣していろいろな行事に用途できそうなので。 ・ 地産の物が多くあり、建物もきれいで緑があります。 ・ 自然との調和を感じます。(一部人工の部分もありますが)	
六花亭アートヴィレッジ 中札内美術村	○	○	○	・ 美しく、毎年楽しみにしています。 ・ カシワ林、枕木の道、石畳、庭、全体のバランス、景観が心地良い風景となじむ建物。 ・ 窓の外の景色が絵画のようで気に入っている。 ・ どんぐり林があり、きれいな庭と美味しい食べ物がある。 ・ 全体的に雰囲気が良い。 ・ 自然を大切に日頃の整備。 ・ 建物やその周りの雰囲気がすてき。 ・ 手入れされている環境の中、自然がいっぱいで素晴らしい。 ・ 柏の林に建物が点在し季節の彩りが美しい。	

景観資源名	中札内らしい・保全・大切・活用したい景観資源			村民の捉え方	
	関連計画等	アンケート	ワークショップ	アンケート調査	ワークショップ
六花の森	○	○	○	・自然を大切と日頃の整備。 ・美しいから。 ・毎年見に行く。 ・桜の花がとてもキレイなので。 ・花の村だから。 ・桜がとても美しい。 ・さくら一望。 ・園芸種ではなく山野草が多く村のイメージに合っていると思います。 ・観光で訪れた時から印象に残っているから。	
グランピングリゾートフェーリエンドルフ	○	○	○	・四季を感じれる。 ・秋は紅葉があり、エゾハスもシマリスもネコも見えるので。	
市街地の公共施設（文化創造センター、道の駅等）			○		・村民が気軽に利用でき、植わっている花々、管理された芝生だけでなく、そこに至るまでの並木道と建物の調和も素敵で美しい。自慢できる景観である。花と緑とアートの村のシンボルだと思う。PRしたいし、お客さんを案内したい。もっと磨きをかけていきたい。道の駅の広場はもっと有効活用していけたら良い。
札内川上流付近の公共施設			○		・札内川上流付近には、ピョウタンの滝や札内川園地などの施設がある。気軽にアクセスが出来、迫力ある滝や中札内の原風景を楽しめる場所が多くあり、観光地としてもっと発展するためにPRしたり有効活用したいが、課題が多いと感じている。
民間の施設（美術村、六花の森等）			○		・カシワ林や野草など、自然と調和した美しく、村外の人にもおすすめしたい施設が多い。このような素敵な空間がもっと広がっていくと良い。
鉄道記念公園	○	○		・遊んでいる子供達が多くなり活気がある。	
札内川総合運動公園	○	○	○		・広大な芝生がとても綺麗に管理されている。もっと活用したい。
桜六花公園	○	○	○	・中札内の信号から上札内桜六花公園までの直線の道。 ・桜並木は見事な景色です。 ・とても綺麗な景色。	
公園		○	○		・丁寧に管理された美しい緑地が多い。見るだけでなく活用していきたい。
旧杉村農場サイロ（村有形文化財）	○	○		・村有形文化財として、広くPRが必要。	
国道236号線	○			・夏～秋まで道の花はステキです。 ・国道沿いの花壇がきれい。	
村道幹線	○			・落ち葉とか道路に落ちていて季節を感じられる。	
工場の壁の絵		○		・一目見ると注意してみたくなる。 ・中札内村の町に向かう時に見れてステキ。	
七夕まつり	○	○		・町、村の人の愛あふれるあたたかさが感じられる。	
同朋寺		○		・桜の満開時に見に行き素晴らしかったため。すぐとなりのイチイも見事で驚いたので。	

2.3.2 景観資源の類型化と構成要素の整理

前節にて整理した景観資源は、中札内村のまちやその景観を構成する要素と捉えることが出来ます。構成要素として景観資源を捉えたときにどのような景観が形成されるか、類型化を図ることで、その写像として表わされる景観の特性を捉えるものとなりました。

以下、代表的な景観資源からみる類型区分の整理表として整理しました。

表 2-8 景観特性と類型区分の整理表

景観特性	類型区分	代表的な景観資源
(1) 自然	山並み	日高山脈／十勝ポロシリ岳（ピリカノカ）／日高山脈襟裳国定公園
	河川	札内川／恵津美川／三番川／ペベギリ川／ペペキキ川／河畔
	景勝地	ピョウタンの滝（札内川園地）／西札内防災ダム周辺／一本山周辺
	植生	オオバナノエンレイソウ／ニリンソウ／カタクリ群生地（一本山）／カシワ林・カシワ／スズラン
(2) 農村	田園	農地／農道／作物／牧草ロール・麦稈ロール／並木／住宅
	防風林	防風保安林／耕地防風林／共栄の防風林
(3) 市街地	花・緑	花壇／街路樹／独立樹／野草
	街並み	文化創造センター周辺／上札内／ときわ野
(4) 施設	交流施設	文化創造センター／道の駅なかさつない／グランピングリゾート フェーリエンドルフ／六花の森／六花亭アートヴィレッジ 中札内美術村／花畑牧場／その他
	歴史的施設	旧杉村農場サイロ（村有形文化財）／中札内神社
	公園	鉄道記念公園／札内川総合運動公園／桜六花公園／中央公園／中札内村6区公園
	道路	高規格道路／国道／道道／村道
(5) 歴史文化	神事・行事・伝統芸能	石見神楽／ポロシリ太鼓／村民盆踊り／上札内de花火

2.3.3 景観特性と課題の整理

各調査で得られた結果を元に、各景観特性・類型区分毎に特徴と課題をまとめました。(各調査結果で得られた特徴や課題は巻末資料参照)

(1) 自然

- 類型区分：山並み、河川、景勝地、植生

1) 山並み

- 景観資源：日高山脈／十勝ポロシリ岳（ピリカノカ）／日高山脈襟裳国定公園

◇ 現況

北海道の背骨と言われる日高山脈は、北海道中央南部を南北約 150km にわたって走る峻険かつ自然性の高い山脈で、中札内村を象徴する重要な景観資源になっています。中札内村のどの場所からも日高山脈を眺めることができ、見る場所や方角、季節や時間帯によっても違った景色を楽しむことができます。山脈の一つ一つに名前が付けられており、村民はその山々を名前で呼び分けています。村民それぞれが日常の生活の中でお気に入りの景色を持っているなど、村民から愛される大切な景観資源のひとつです。日高山脈襟裳国定公園は、その雄大な日高山脈の山並み、広尾町から襟裳岬にかけての海食崖の続く海岸線一帯、そして花の名山として知られるアポイ岳とその周辺の3つの地区で構成される自然公園です。

◇ 課題

日高山脈襟裳国定公園は 2024 年夏に、環境省より国立公園になることが発表されています。この国立公園化に伴い観光客の増加等が見込まれるため、どのように中札内村としてアピールをしていくかが課題です。また利用客の増加によるごみの放置や生態系への影響、環境悪化が懸念されています。日高山脈を眺望するための視点場は、その多くが畑の周囲を走る道路です。そのため、撮影者による畑や私有地への侵入、ゴミのポイ捨てが問題となっています。また電柱やソーラーパネルの設置等によって景観が阻害されないよう保全していくことも課題として挙げられています。



日高山脈



国道沿いの電柱のと鉄塔

2) 河川

➤ 景観資源：札内川／恵津美川／三番川／ペベギリ川／ペペキキ川／河畔

◇ 現況

中札内村の河川は、すべて十勝川水系であり、村を貫流する札内川に加え、村内の公園を通過する札内川の支流（恵津美川、三番川等）、そのほか農場を通過する戸蔦別川の支流（ペペキキ川等）、猿別川の支流（ペベギリ川等）など多くの小川が流れています。

札内川や村内の公園を通過する川の川沿いには、公園やキャンプ場（札内川園地）として緑あふれる水辺空間が整備され、市民の憩いの場となっています。また札内川は、河畔に貴重なケショウヤナギの群落があり、日高山脈をバックに広い礫河原を網状に流れる特有な景観を形成しています。

村内を通過する小河川や用水路は、農業を支える一部となると共に、緑と水の回廊を形成し、動植物の生息する環境も形成しています。

◇ 課題

札内川のケショウヤナギの保全を含め、周辺の植生と調和した環境の保全や、親水性の高い河川景観を維持、形成していくことが課題となっています。



3) 景勝地

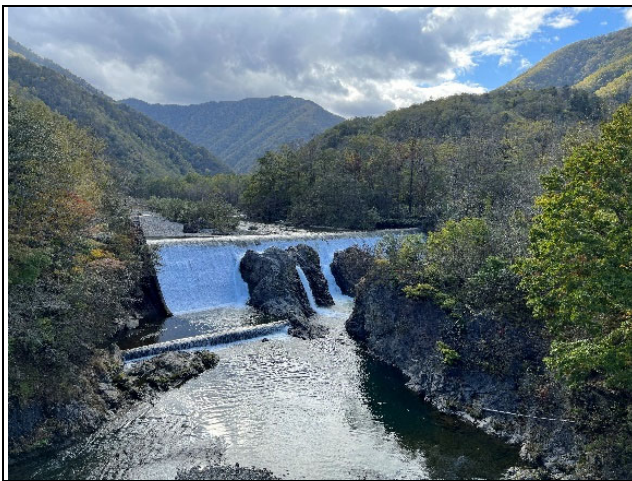
- 景観資源：ピョウタンの滝／西札内防災ダム周辺／一本山周辺

◇ 現況

中札内村には数々の景勝地があります。10メートルの落差で豪快に流れ落ちるピョウタンの滝は、迫力がある代表的な観光スポットとして、村民にとって中札内らしい自慢の景観の一つになっています。その下流には西札内防災ダム等、美しい札内川の流水と人工物が調和した景勝地がいくつもあります。一本山展望タワーからは日高山脈や十勝平野のパノラマを一望することが出来ます。特に日高山脈のペテガリ岳の氷期に形成された大きなカールが3つ並んでいる様子を平地から眺めることが出来る日本国内でも貴重な視点場になっています。

◇ 課題

札内川園地には、かつては迫力ある滝を間近で見られる「滝見台」が設置されていましたが、老朽化等により現在は撤去され、近くで滝の迫力を体感できる視点場がありません。また札内川をはじめとした日高山脈の大自然を体感できる場所が少ないといった課題もあります。



ピョウタンの滝



一本山展望タワーからの眺め

4) 植生

- 景観資源：スズラン／カタクリ群生地（一本山）／オオバナノエンレイソウ／ニリンソウ／カシワ林・カシワ

◇ 現況

村内には自然植生が作り出す美しい風景がたくさんあります。

村の花でもあるスズランは、六花亭アートヴィレッジ中札内美術村に群生地があり、6月になると可愛らしい白い花と爽やかな香りがカシワ林の林床を覆う姿が村民を楽しませてくれます。その他にも一本山のカタクリ、六花の森のオオバナノエンレイソウ、札内川園地のニリンソウ等、美しい自然の花々の自生地が数多くあります。これらのうち、スズラン、オオバナノエンレイソウの群生地は民間施設内にあり、民間企業により丁寧に維持管理されています。

またカシワ林の樹林帯は村のシンボルにもなっていて、夏は緑の葉と青空のコントラスト、秋は紅葉のグラデーションなど村の四季を彩ります。

◇ 課題

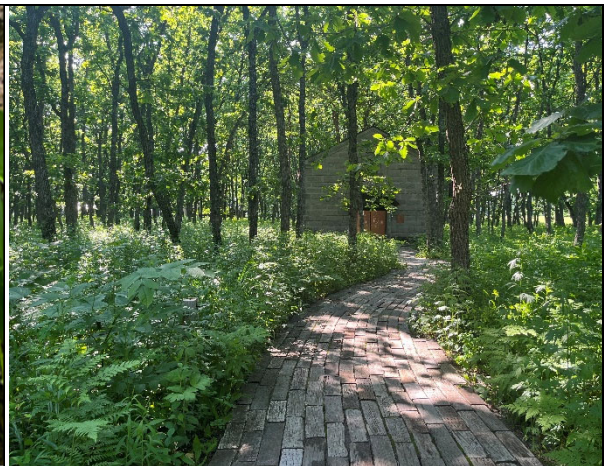
スズラン等の自然の花々は見られる場所が限られています。また、林床を草刈りする等、ある程度人の手による管理も必要です。またこれらの群生地は村外の人にはあまり知られておらず、もっとPRしていきたいという声も聞かれています。

カシワ林については、落葉や強風による倒木への対応が課題となっています。



スズラン

出典：六花亭アートヴィレッジ中札内美術村からのご案内



カシワ林

(2) 農村

- 類型区分：田園、防風林

1) 田園

- 景観資源：農地／農道／作物／牧草ロール・麦稈ロール／並木／住宅

◇ 現況

中札内村の基幹産業である農業では、土づくりを基本とした循環農業を軸とし、主要作物の小麦や馬鈴薯等をはじめとした作物の輪作によって営まれています。農地はその営みによって、時に馬鈴薯の花が咲き誇り、時に小麦の穂で金色に染まったあとは麦稈ロールがあらこちに転がっているなど、同じ場所でも季節によって様々な表情を見せてくれます。また畑の中に伸びる農道は、景色に心地よいアクセントと変化をもたらし、農家にとっても畑と同様にかけがえのない景観資源となっています。

◇ 課題

農地の脇にゴミが捨てられているのが散見されます。何度拾っても同じ場所に捨てられている等、ごみのポイ捨てや不法投棄の対策が課題です。また道路脇に繁茂した植物（イタドリ等）や耕作放棄されて荒れた農地や廃屋が景観を阻害している場所もあります。国道沿いからは電柱や電波塔等が景観阻害要因となっています。



2) 防風林景観

➤ 景観資源：防風保安林／耕地防風林／共栄の防風林／ふれあいの森

◇ 現況

防風林は中札内村の景観を特徴づける重要な景観要素の一つです。防風林は、防風や防雪による農地の風食防止や地温上昇等農業に直接関わる機能を持つ他、土地を分割するための印としても植栽されてきました。防風林には、国によって整備された防風保安林（基幹防風林）と、農家等の土地所有者によって植林された耕地防風林があります。防風林は数十メートルの幅を持った樹林帯で、十勝を代表する格子状防風林の骨格となっています。また樹林帯は多くの生き物の棲み処にもなっています。

日高山脈を背景に、幾重にも重なった防風保安林、耕地防風林と農地、農道、家屋や農作業をする人々の姿は、村民にとってかけがえのない日常の風景となっています。

◇ 課題

近年、防風林は日照阻害や農地の集約化や GPS やドローンを活用した IT 技術の導入等により農作業の支障になる等の理由で、耕地防風林が伐採されるケースが増えています。耕地防風林の減少によって景観的な観点だけでなく、土が飛ぶようになった等、防風林本来の機能が損なわれることによる生活への影響も懸念されています。

防風保安林については、古くなった樹木や強風で倒れた樹木の撤去、更新等の管理面で課題を抱えています。今後、農業と景観双方の機能を両立させながら、適切な防風林の維持管理について検討していくことが必要です。また既存の樹種は寿命が短いものや落葉により農作業に支障がある等の課題を抱えているため、長期的に見て維持管理がしやすく農作業に支障になりにくい樹種を選定していくことも必要です。



共栄の防風林



耕地防風林

(3) 市街地

- 類型区分：花・緑、街並み

1) 花・緑

- 景観資源：花壇／街路樹／独立樹／野草

◇ 現況

市街地の沿道は四季折々の花が咲く花壇によって彩られ、訪れた人たちを温かく迎えてくれます。

建物・道路・緑・花・看板については周辺と調和をはかるなど、統一感のあるまちなみづくりに取り組んでいます。

◇ 課題

花壇に限られたところにしかなく花が少ない、街路樹が少ない等の課題があります。また道路脇に雑草が繁茂していたり、廃屋が放置されている、まちなかに活気がない、デザインに統一感がない等の課題があります。



花壇

出典：中札内村 Facebook



街並み

2) 街並み

- 景観資源：文化創造センター周辺／上札内／ときわ野

◇ 現況

市街地では、道の駅や鉄道記念公園などの公共施設が建ち並び、村民の手で綺麗に植栽された美しい花々や丁寧に管理された芝生が出迎えてくれます。文化創造センター周辺はそこに至るまでの並木道、目の前の広がる美しい芝生、樹木、建物が良く調和し、花と緑とアートの村を象徴する景色となっています。

◇ 課題

美しい芝生をイベントに使う等、さらなる活用を望む声や、村外の人にアピールしていきたいという意向もあります。またこういった空間は市街地のごく一部に限られていることも課題として挙げられています。



文化創造センター周辺



文化創造センター前の芝生

(4) 施設

- 類型区分：交流施設、歴史的施設、公園、道路

1) 交流施設

- 景観資源：道の駅なかさつない／文化創造センター／グランピングリゾート フェアリーエンドルフ／六花の森／六花亭アートヴィレッジ 中札内美術村／花畑牧場／その他

◇ 現況

郊外には六花亭アートヴィレッジ中札内美術村や六花の森など、周辺の自然と調和した民間施設が数多くあり、村民自慢の観光地にもなっています。市街地には、村民が気軽に利用できる道の駅や文化創造センター等の公共施設があり、丁寧に管理された花々や美しい芝生が広がり、村民の憩いの場にもなっています。

◇ 課題

郊外の民間施設だけでなく、市街地の公共施設も村外の人に見てほしい村の景観資源であるが、村外の人への案内が足りていない等の課題を抱えています。



道の駅 なかさつない



文化創造センター

2) 歴史的施設

- 景観資源：旧杉村農場サイロ（村有形文化財）／中札内神社

◇ 現況

旧杉村農場サイロは中札内村の酪農の先駆者・杉村吉之助が昭和5年に建造したサイロで、当時杉村氏が経営していたコンクリート会社の特許製品であったL型ブロックを使用しており、構造的にも希少な酪農に関する歴史的遺産建造物です。昭和59年には、中札内村文化財として指定されており、村の唯一の有形文化財となっています。

中札内神社は天照大神を主祭神として奉斎し、惟神の大道、神恩を奉謝し神徳を受け中札内一円の産土神として祭事が行われています。

◇ 課題

旧杉村農場サイロは村の有形文化財として広く知ってもらうことが課題となっています。



旧杉村農場サイロ



中札内神社

3) 公園

- 景観資源：鉄道記念公園／札内川総合運動公園／桜六花公園／中央公園／中札内村 6 区公園

◇ 現況

鉄道記念公園は旧国鉄広尾線中札内駅跡に整備された公園で、遊具以外にも中札内の鉄道の歴史を振り返る看板等も整備されています。子どもたちが元気に遊び回る姿が、まちなみに活気を与えています。札内川総合運動公園は札内川の河川敷に整備された運動公園で、広大な芝生でサッカー等の大会も開かれています。

桜六花公園は高台の公園に約 800 本のエゾヤマザクラが植えられていて、桜の開花時期には多くの人たちで賑わいます。この公園に至るまでの直線道路沿いにも桜が並び、村内屈指の桜の名所となっています。

◇ 課題

芝生や草花などの継続的な維持管理が課題となっています。また、桜六花公園の道路沿いの桜並木では、電線・電柱が景観を阻害しています。



鉄道記念公園



桜六花公園

出典：中札内村観光協会

4) 道路

➤ 景観資源：高規格道路／国道／道道／村道

◇ 現況

高規格道路や国道、道道や村道は、日高山脈を背景とした中札内村の特徴的な景観を眺めるための視点場となっています。日高山脈を眺望する視点場の多くは、村道沿いにあります。一方、高規格道路は比較的高い位置から村内を眺めることが出来、電線等が気にならなくなるため、日高山脈を眺望する貴重な視点場にもなっています。

◇ 課題

帯広方面から中札内村に続く国道は中札内村の玄関口にもなっていますが、村に入っすぐに不自然な樹形に剪定されたシラカバが立ち並んでいる場所があり、景観を阻害しています。また道路沿いには電柱や鉄塔が建ち並んでいて、日高山脈への眺望を阻害しています。その他、雑草が繁茂している場所も見受けられます。



国道



国道沿いの伐採されたシラカバ

(5) 文化・歴史

- 類型区分：神事・行事・伝統芸能

1) 神事・行事・伝統芸能

- 景観資源：石見神楽／ポロシリ太鼓／村民盆踊り／上札内 d e 花火

◇ 現況

石見神楽は大正六年、島根県日和村（現石見町）から元更別地区に入植した日和村出身者が伝えた出雲神社の神楽能です。昭和 62 年には、中札内村無形文化財に指定されました。近年、元更別大国神社石見神楽保存会が後継者育成のため、上札内小学校で児童に神楽指導を行い、定期的に上演会も行われています。このほか、ポロシリ太鼓、村民盆踊り、花火大会など、歴史・文化的な行事が村民にとって大切な景観の一部となっています。

◇ 課題

中札内村の大切な景観の一部となっている歴史・文化的な行事を、未来に継承していくことが課題となっています。



石見神楽

出典：中札内村 HP



ポロシリ太鼓

出典：広報なかさつない NO.740

2.3.4 景観の類型と構成要素をふまえた景観計画案作成の進め方

今年度に検討した内容を踏まえ、令和6年度は景観計画案の作成を行います。作成に向けた手順は、下記の通りです。

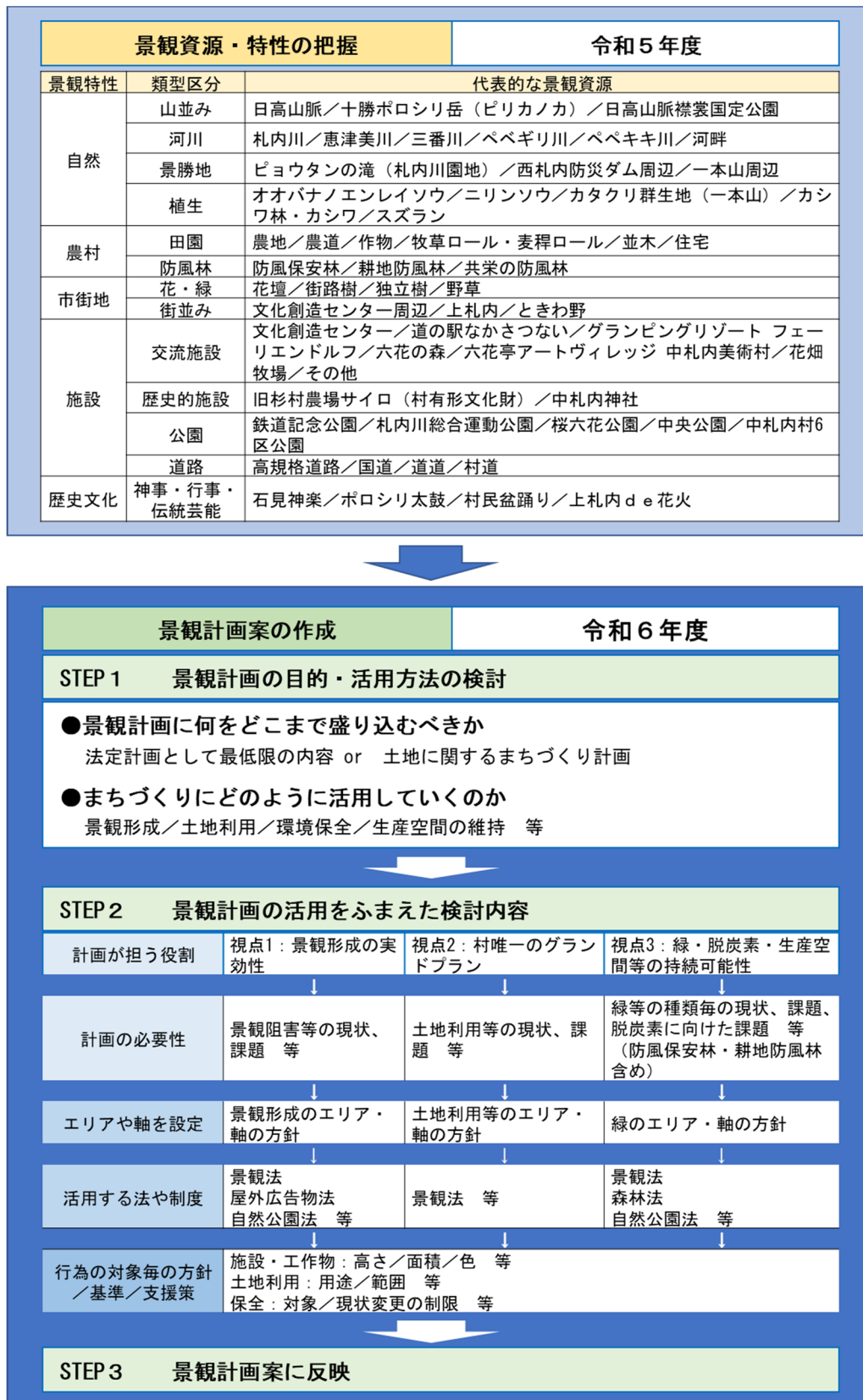


図 2-17 令和6年度景観計画案の作成手順